

奄美大島人口ビジョン 2025

令和6年12月

奄美大島総合戦略推進本部

奄美市 大和村 宇検村

瀬戸内町 龍郷町

目 次

I. 奄美大島の人口推移

(1)人口の推移（奄美大島・市町村別）	P1
(2)合計特殊出生率（市町村別）	P2
(3)年齢3区分別人口／人口動態/15～49歳の人口推移（奄美大島・市町村別）	
① 奄美大島	P3
② 奄美市	P8
③ 大和村	P13
④ 宇検村	P18
⑤ 瀬戸内町	P23
⑥ 龍郷町	P28

II. 奄美大島の将来人口推計

① 奄美大島	P33
② 奄美市	P34
③ 大和村	P35
④ 宇検村	P36
⑤ 瀬戸内町	P37
⑥ 龍郷町	P38

III. 奄美大島の将来展望

(1)目指すべき地域社会の姿	P39
(2)目指すべき取組の方向	P40
(3)人口の将来展望	P41

I. 奄美大島の人口推移

1. 人口の推移（奄美大島・市町村別）

国勢調査によると、奄美大島の人口は、1960(S35)年に10万247人であったが、2020(R2)年には1960(S35)年の58.6%となる5万8,738人となった。

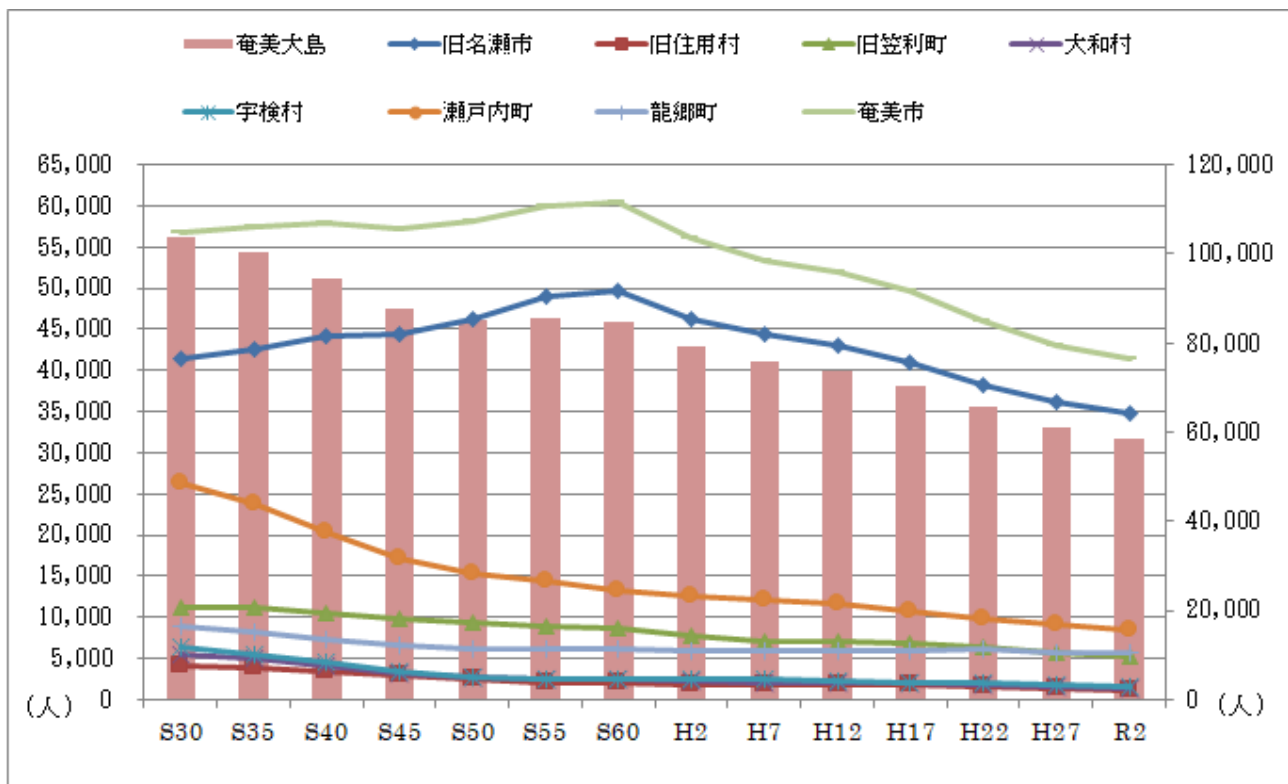
また、2020(R2)年の人口は10年前の2010(H22)と比べても89.3%となっており、人口減少が進んでいる状況といえる。

図表 1-1-1) 人口推移表【奄美大島, 5 市町村】

年度	S35 (1960)	S45 (1970)	S55 (1980)	H2 (1990)	H12 (2000)	H22 (2010)	R2 (2020)	10年前比 (2020/2010)	60年前比 (2020/1960)
	昭和35年	昭和45年	昭和55年	平成2年	平成12年	平成22年	令和2年		
奄美市	57,555	57,278	60,052	56,026	51,898	46,121	41,390	89.7%	71.9%
(旧)名瀬市	42,539	44,491	49,021	46,306	43,015	38,259	34,838	91.1%	81.9%
(旧)住用村	3,890	2,971	2,113	1,925	1,906	1,544	1,188	76.9%	30.5%
(旧)笠利町	11,126	9,816	8,918	7,795	6,977	6,318	5,364	84.9%	48.2%
大和村	5,105	3,136	2,509	2,251	2,104	1,765	1,364	77.3%	26.7%
宇検村	5,446	3,377	2,594	2,492	2,243	1,932	1,621	83.9%	29.8%
瀬戸内町	23,798	17,273	14,309	12,566	11,649	9,874	8,546	86.6%	35.9%
龍郷町	8,343	6,610	6,136	5,967	6,002	6,078	5,817	95.7%	69.7%
奄美大島	100,247	87,674	85,600	79,302	73,896	65,770	58,738	89.3%	58.6%
10年前比	-	87.5%	97.6%	92.6%	93.2%	89.0%	89.3%		

出典：国勢調査

図表 1-1-2) 人口推移グラフ【奄美大島, 5 市町村】



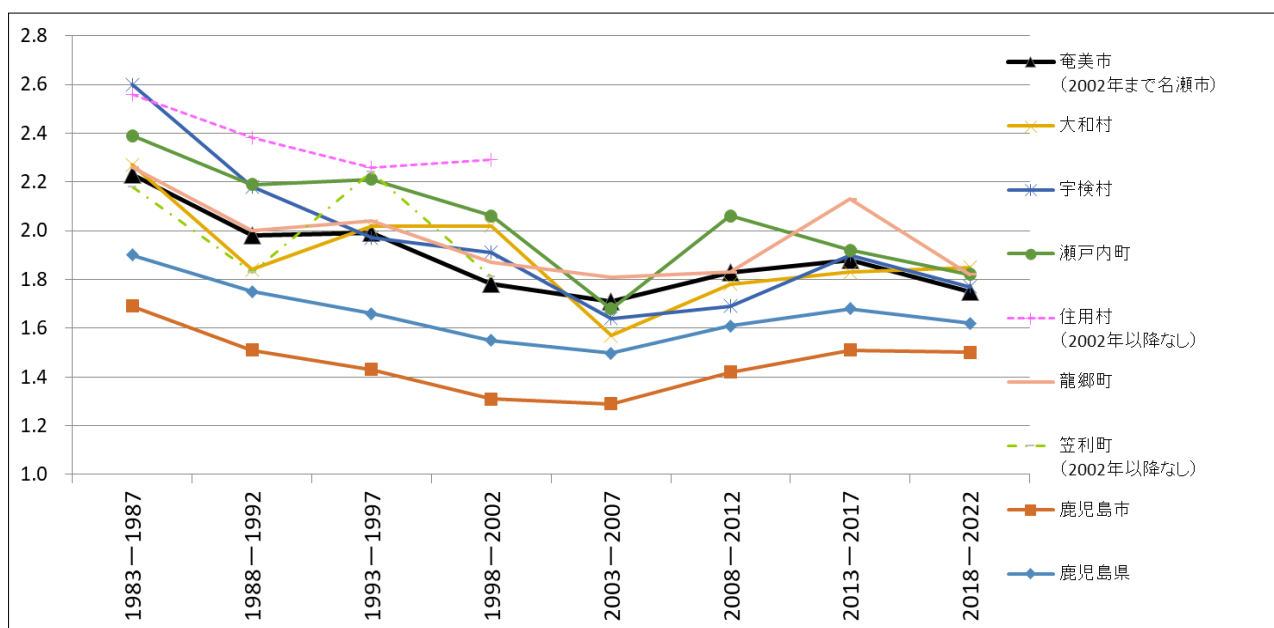
出典：国勢調査

2. 合計特殊出生率（市町村別）

全体的には低下傾向にあったものが、「2003-2007」期から「2013-2017」期においては上昇傾向であった。しかし「2018-2022」期においては大和村を除き、下降傾向にある。

また、奄美大島 5 市町村は、いずれの市町村も鹿児島県、鹿児島市の水準を常に上回っている。

図表 1-2-1) 市町村別にみた合計特殊出生率の推移



出典：厚生労働省 人口動態保健所・市町村別統計

	昭和58年～ 昭和62年 1983－1987	昭和63年～ 平成4年 1988－1992	平成5年～ 平成9年 1993－1997	平成10年～ 平成14年 1998－2002	平成15年～ 平成19年 2003－2007	平成20年～ 平成24年 2008－2012	平成25年～ 平成29年 2013－2017	平成30年～ 令和4年 2018－2022
鹿児島県	1.9	1.75	1.66	1.55	1.50	1.61	1.68	1.62
鹿児島市	1.69	1.51	1.43	1.31	1.29	1.42	1.51	1.50
奄美市 (2002年 まで名瀬 市)	2.23	1.98	1.99	1.78	1.71	1.83	1.88	1.75
大和村	2.27	1.84	2.02	2.02	1.57	1.78	1.83	1.85
宇検村	2.6	2.18	1.97	1.91	1.64	1.69	1.90	1.77
瀬戸内町	2.39	2.19	2.21	2.06	1.68	2.06	1.92	1.82
住用村 (2002年 以降なし)	2.56	2.38	2.26	2.29				
龍郷町	2.26	2	2.04	1.87	1.81	1.83	2.13	1.82
笠利町 (2002年 以降なし)	2.18	1.83	2.24	1.81				

出典：厚生労働省 人口動態保健所・市町村別統計

3. 年齢3区分別人口／人口動態 15～49 歳男女別人口の推移（奄美大島・市町村別）

(1) 奄美大島

① 年齢3区分別人口の推移

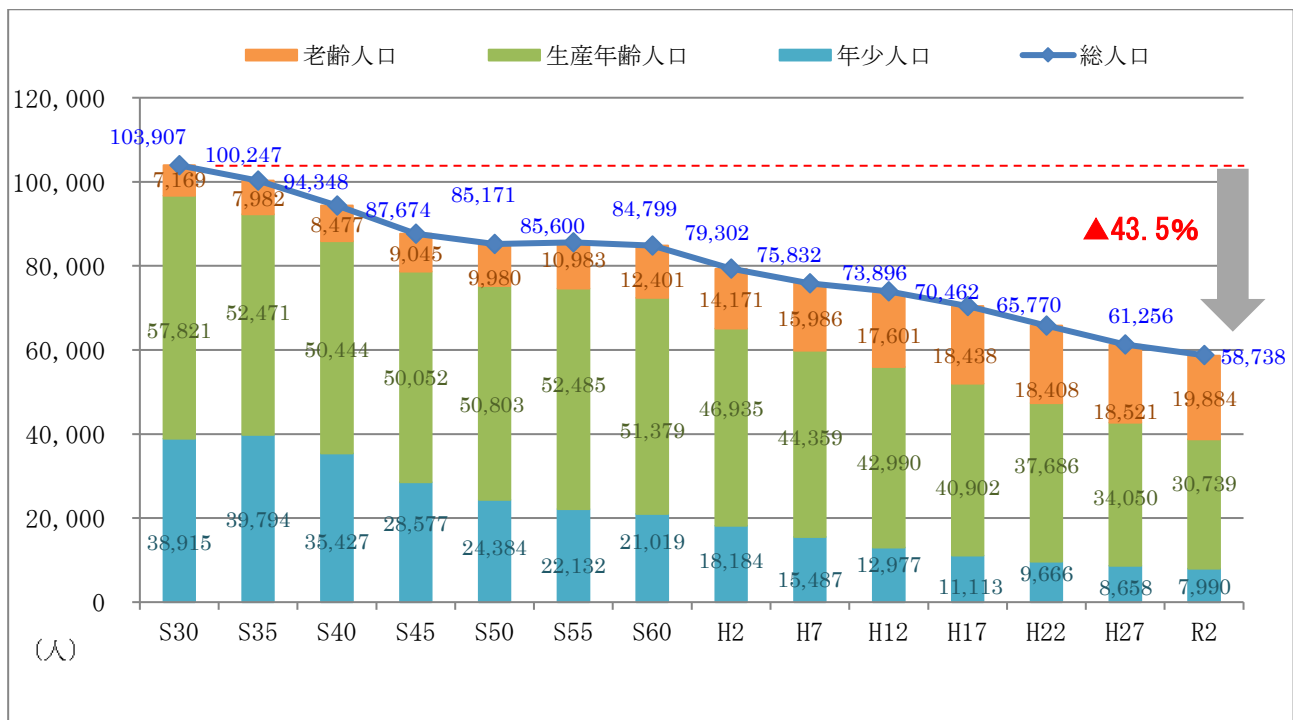
1955(S30)年以降の奄美大島における人口は、一時、横ばいの時期があったものの、全体的には減少傾向をたどっており、実数比較(2020年/1955年)すると約56.5%に減少している。

1955(S30)年には「年少人口」が37.5%を占める3万8,915人であったのに対し、2000(H12)年以降は20%を割り込み、2020(R2)年には13.6%まで落ち込んでいる。これを1955(S30)年と2020(R2)年で実数比較(2020年/1955年)すると約20.5%に減少している。

「生産年齢人口」は、1980(S55)年から1985(S60)年にかけて60%を超える高水準に達したものの、1990(H2)からは50%台になるとその他の年代も総じて50%台での推移となっている。これを同じく実数比較(2020年/1955年)すると53.2%に減少している。

一方で、「高齢人口」は1955(S30)年には6.9%であったものが、1970(S45)年に10%台、1995(H7)年に20%台、2015(H27)年には30%台を超える状況となっている。これを同じく実数比較(2020年/1955年)すると277.4%に大きく増加している。

図表 1-3-11) 年齢3区分別人口の推移【奄美大島】



出典：国勢調査

図表 1-3-12) 年齢 3 区分別人口の割合【奄美大島】

年齢 区分	1960 (S35)	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	2020 (R2)
0~14	39.7%	32.6%	25.9%	22.9%	17.6%	14.7%	13.6%
15~64	52.3%	57.1%	61.3%	59.2%	58.4%	57.3%	52.4%
65~	8.0%	10.3%	12.8%	17.9%	23.9%	28.0%	33.9%

出典：鹿児島県の推計人口

② 人口動態（自然動態・社会動態）

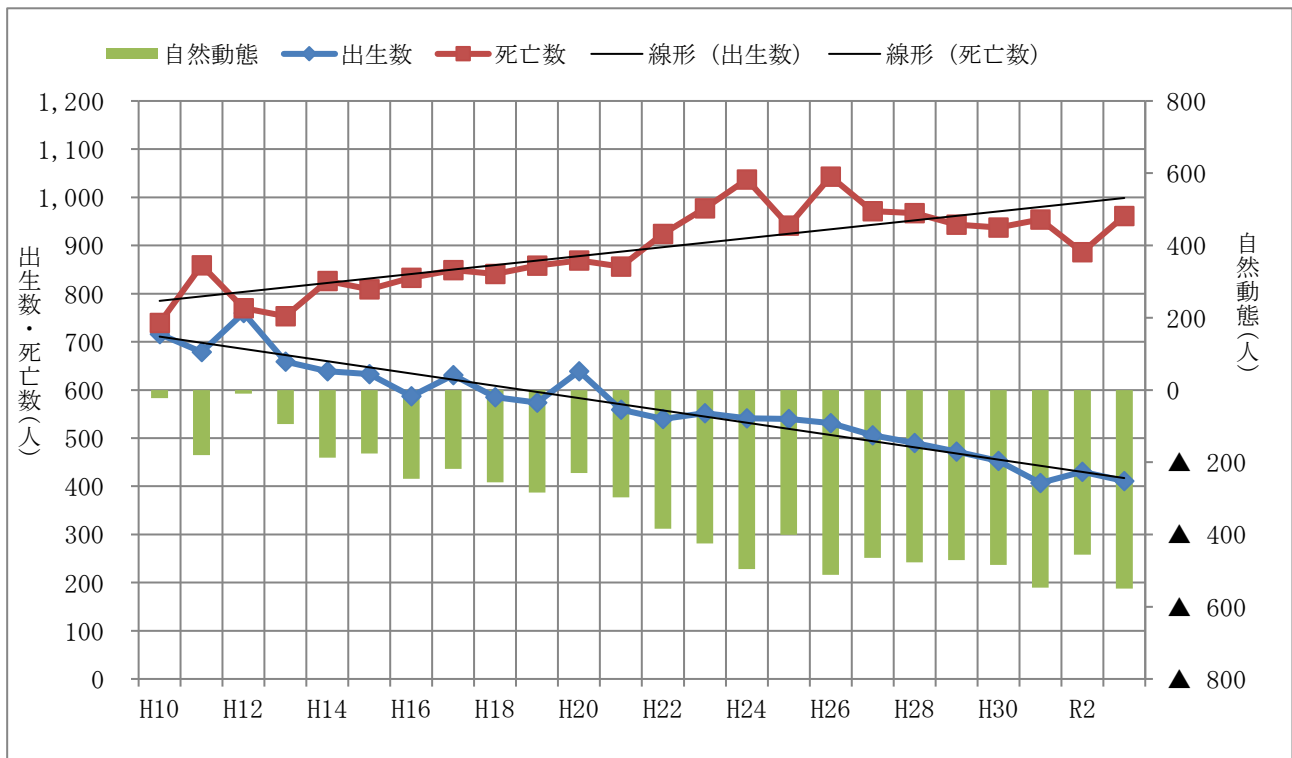
1998 (H10) 年以降の奄美大島における出生数から死亡数を差し引いた「自然動態」は、常に死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっている。

2000 (H12) 年までは、ほぼ±0 であったものが、その後、出生数の低下及び死亡数の増加の傾向が拡大し「ハ」の字型を形成しており、2008 (H20) 年までの▲200 近辺から、2010 (H22) 年以降は急速に▲400 を超えて推移する傾向となっており、2019 (R1) と 2021 (R3) は▲500 を超えている。

「死亡数」をみると、2009 (H21) 年までは 800 人台を推移していたものが、2010 (H22) 年以降に急激に 900 人台や時には 1,000 人台を超える拡大傾向となっている。

一方で、「出生数」をみると、1998 (H10) 年の 716 人からじわじわと 600 人・500 人台へと減少傾向を続け、2016 (H28) 年には 400 人台まで縮小している。

図表 1-3-13) 自然動態（出生数・死亡数）の推移【奄美大島】



出典：奄美群島の概況

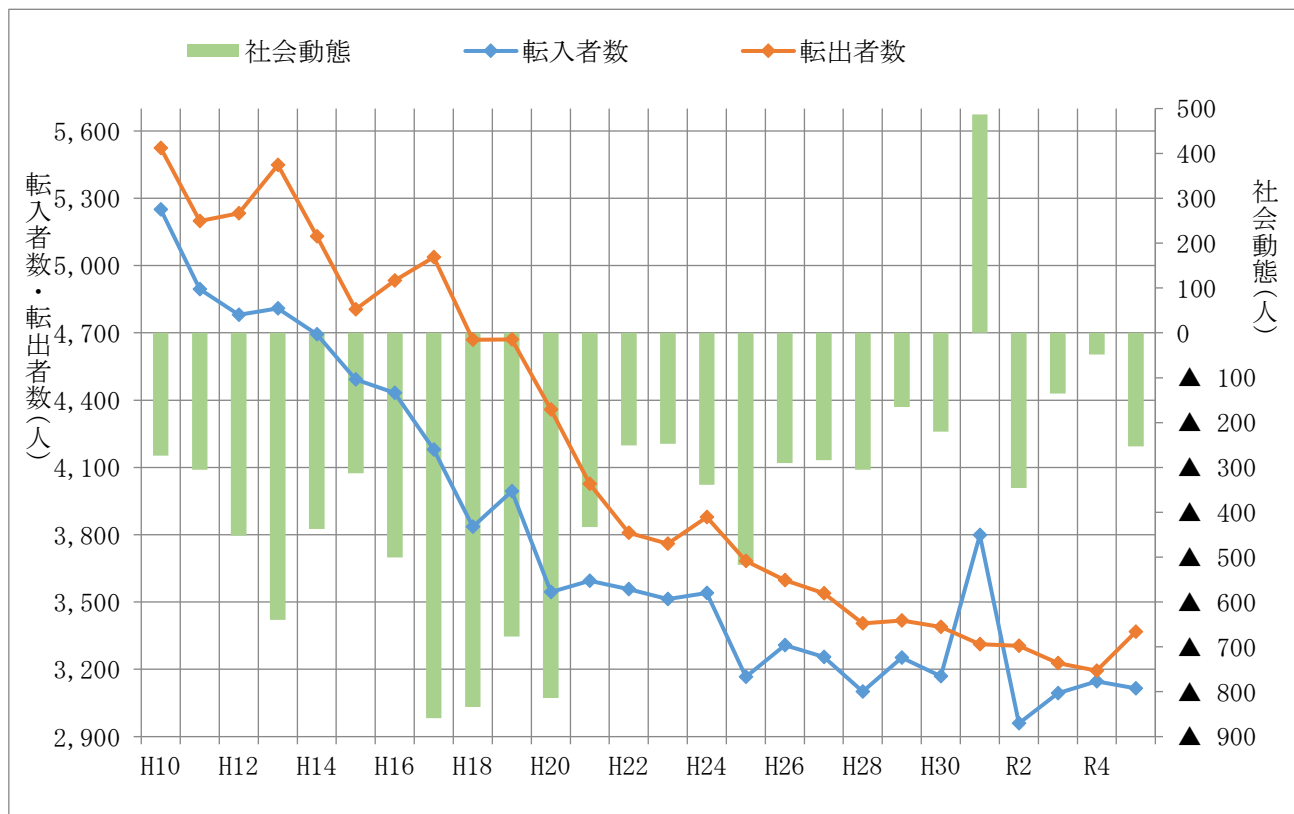
1998(H10)年以降の奄美大島における転入者数から転出者数を差し引いた「社会動態」は、2019(R1)年を除き転出者数が転入数を上回る社会減の状態となっている。

1998(H10)年以降、社会減は増減を繰り返しながら、2005(H17)年には過去最高の▲859人となる。その後も増減は繰り返しながら、縮小傾向をたどっていたが、2019(R1)年は奄美駐屯地開設の影響もあり、487人の社会増となった。しかし、その後は再び、社会減が続いている。

「転入者数」をみると、1998(H10)年は5,000人台であったが、1999(H11)年以降は増減を繰り返しながら、2020(R2)年には一時期2,000人台になるなど、減少傾向が続いているが、近年は3,000人台で推移している。

「転出者数」をみると、2002(H14)年までは5,000人台を推移していたものが、2003(H15)年以降は4,000人台となり、2010(H22)年以降は、3,000人台になりじわじわと減少傾向を続けている。

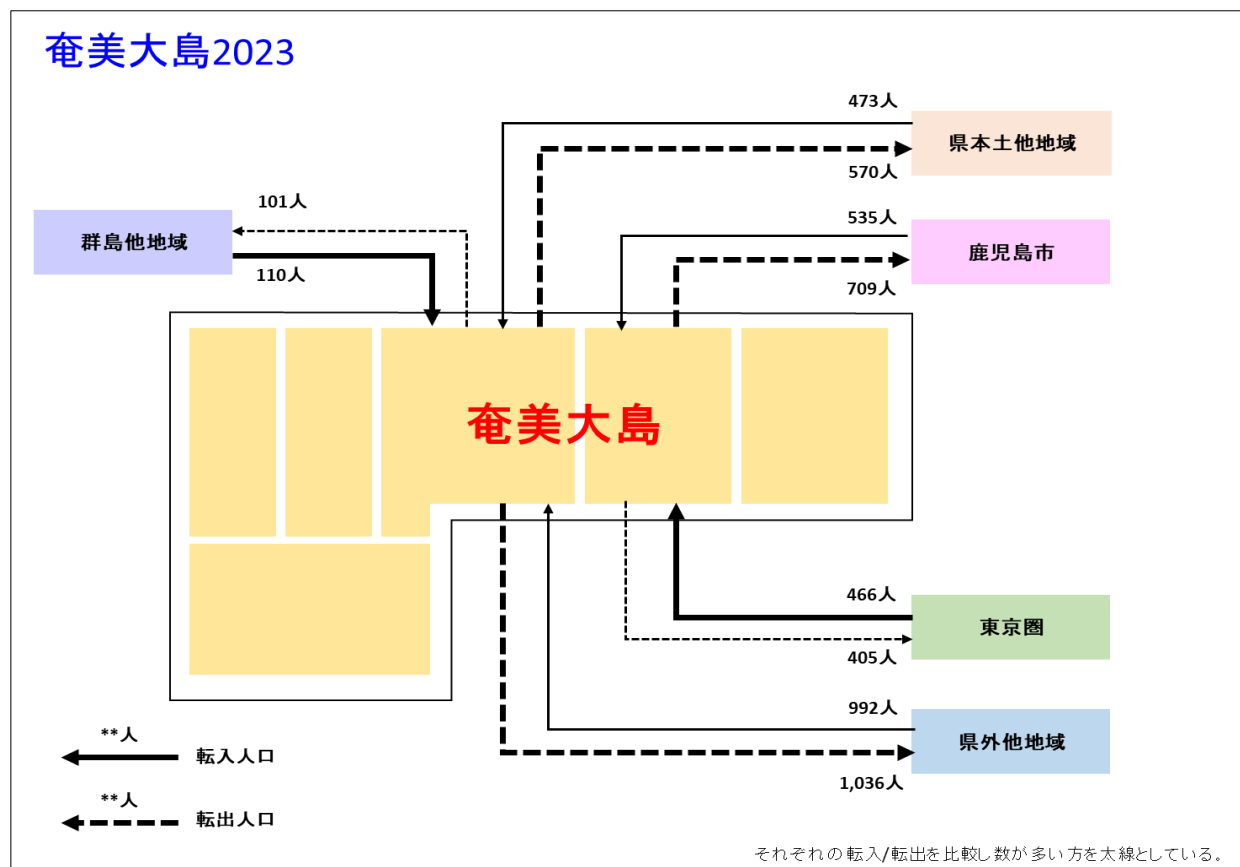
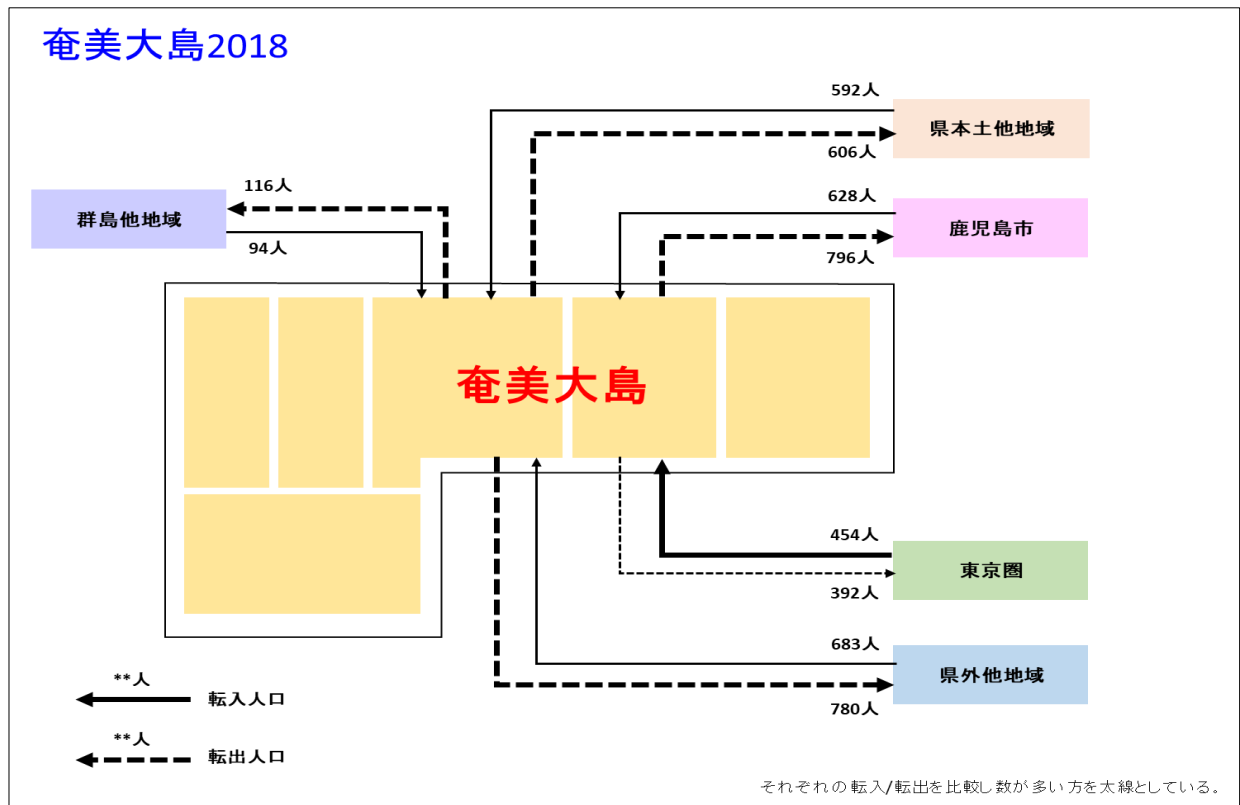
図表 1-3-14) 社会動態（転入数・転出数）の推移【奄美大島】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

「社会動態」は、2018(H30)年と2023(R5)年を比較すると、全体的には流出超過傾向にあるものの、引き続き、東京圏からは流入超過となっている。

図表 1-3-15) 社会動態（転入数・転出数）の 2018-2023 比較【奄美大島】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

③ 人口の推移(15～49 歳)

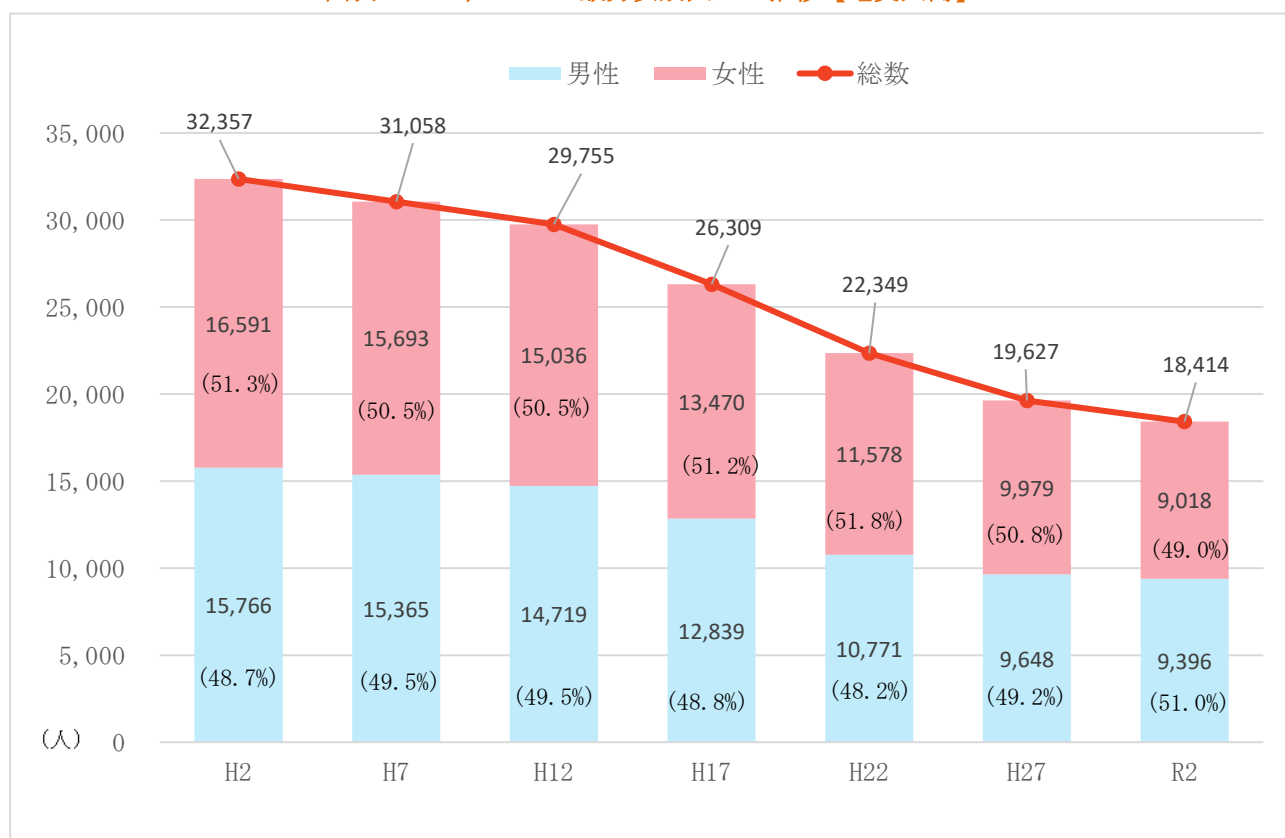
1990 (H2) 年以降の奄美大島における 15 歳～49 歳の人口は、減少傾向をたどってきた。特に、2010 (H22) 年は減少率が 2005 (H17) 年と比較して 15.1%減と最も大きく減少した。その後、2020 (R2) 年の減少率は低下しているものの、これを 1990 (H2) 年と 2020 (R2) 年で実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 56.9%に減少している。

1990 (H2) 年には「15～49 歳の男性人口」が 15,766 人であったのに対し、2015 (H27) 年以降は 10,000 人を割り込み、2020 (R2) 年には 9,396 人まで落ち込んでいる。これも同じく実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 59.6%に減少している。

「15～49 歳の女性人口」についても、1990 (H2) 年には 16,591 人であったのに対し、2015 (H27) 年以降は 10,000 人を割り込み、2020 (R2) 年には 9,018 人まで落ち込んでいる。これを実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 54.4%に減少しており、男性より減少率が大い。

総人口に占める男女の割合については、1990 (H2) 年では、男性が 48.7%、女性が 51.3%と女性の占める割合の方が多かったが、2020 (R2) 年では、男性が 51.0%、女性が 49.0%と男性の占める割合の方が多くなっている。

図表 1-3-16) 15～49 歳男女別人口の推移【奄美大島】



出典：国勢調査

(2) 奄美市

① 年齢3区分別人口の推移

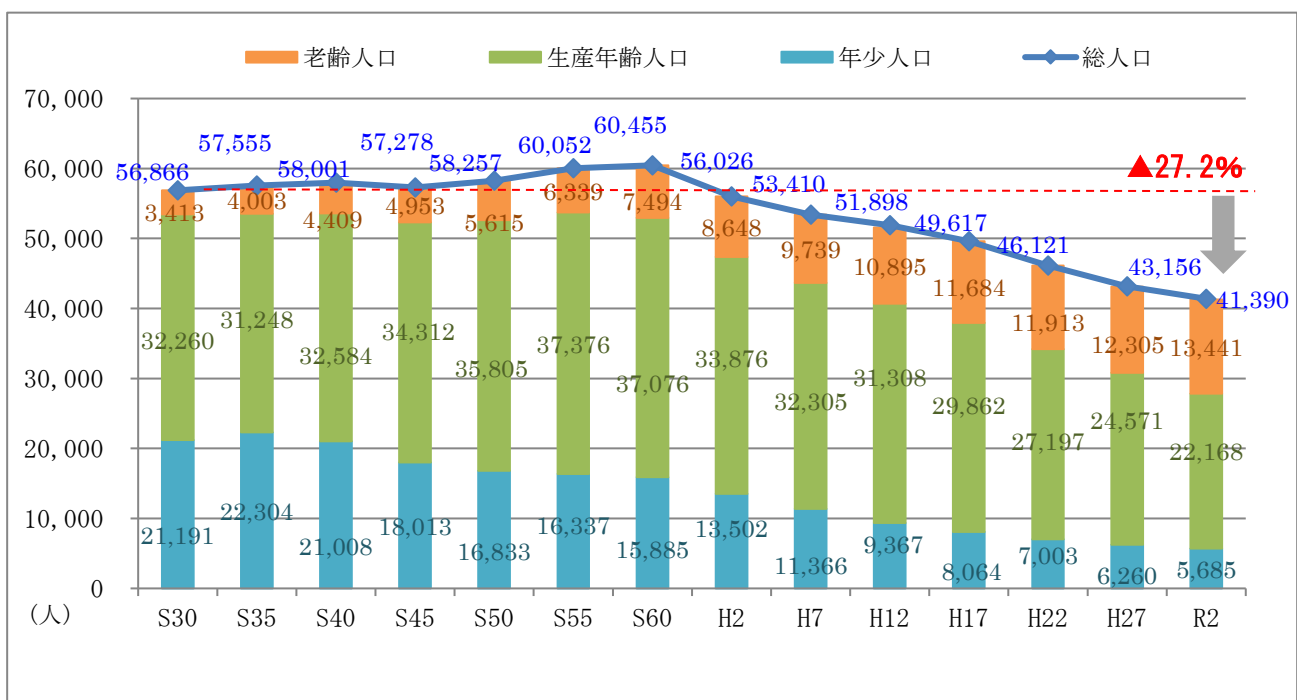
奄美市の人口について、市町村合併前の旧名瀬市・旧住用村・旧笠利町を合算してみると、1985(S60)年までは奄美群島で唯一、増加傾向にあったものの、1990(H2)年以降は減少傾向に転じている。これは人口規模の大きかった旧名瀬市の傾向が大きな要因となっている。

1955(S30)年の「年少人口」については、37.3%を占める2万1,191人が1960(S35)年まで増加したものの、その後は一転して減少傾向となり、1975(S50)年に30%台、2000(H12)年には20%台を割り込み、2020(R2)年には13.8%となっている。これを1955(S30)年と2020(R2)年で実数比較(2020年/1955年)すると約26.8%に縮小している。

「生産年齢人口」は、1975(S50)年から2005(H17)年までの30年間にかけて60%を超える高水準に達したものの、2010(H22)年から50%台となり、2020(R2)年には53.6%となる台地型の推移となっている。これを同じく実数比較(2020年/1955年)すると68.7%に縮小している。

一方で、「高齢人口」は1955(S30)年には6.0%であったものが、1980(S55)年に10%台、2000(H12)年に20%台を超え、2020(R2)年には32.5%となっている。これを実数比較(2020年/1955年)すると393.8%に大きく拡大している。

図表 1-3-21) 年齢3区分別人口の推移【奄美市】



出典：国勢調査

図表 1-3-22) 年齢 3 区分別人口の割合【奄美市】

年齢 区分	1960 (S35)	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	2020 (R2)
0~14	38.8%	31.4%	27.2%	26.3%	18.2%	15.2%	13.8%
15~64	54.3%	59.9%	62.2%	61.3%	60.7%	59.0%	53.7%
65~	7.0%	8.6%	10.6%	12.4%	21.1%	25.8%	32.5%

出典：鹿児島県の推計人口

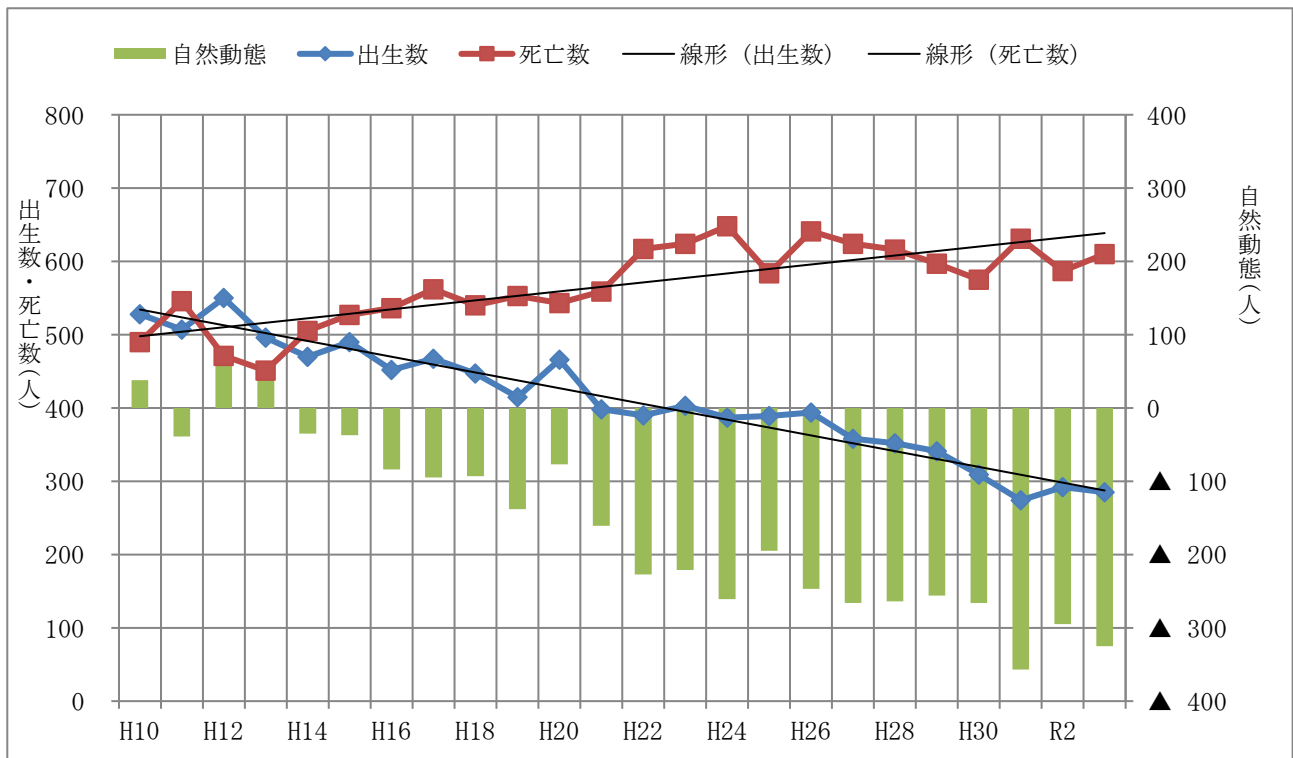
② 人口動態（自然動態・社会動態）

1998 (H10) 年以降の奄美市における「自然動態」は、2001 (H13) 年頃まで上下動を繰り返し自然増であったが、その後の出生数の低下及び死亡数の増加の傾向が双方に拡大し、2010 (H22) 年からは▲200 を超え、直近の 2019 (R1) から 2021 (R3) 年にかけての 3 年間の平均は▲300 を超えている。

「死亡数」をみると、2010 (H22) 年に急激に 600 人台を超えて以降、同水準で推移している。

「出生数」をみると、1998 (H10) 年頃は 500 人台で推移していたものが、2009 (H21) 年に 400 人台、2019 (R1) 年には 300 人台を下回り、出生数の減少に歯止めがからない状況である。

図表 1-3-23) 自然動態（出生数・死亡数）の推移【奄美市】



出典：奄美群島の概況

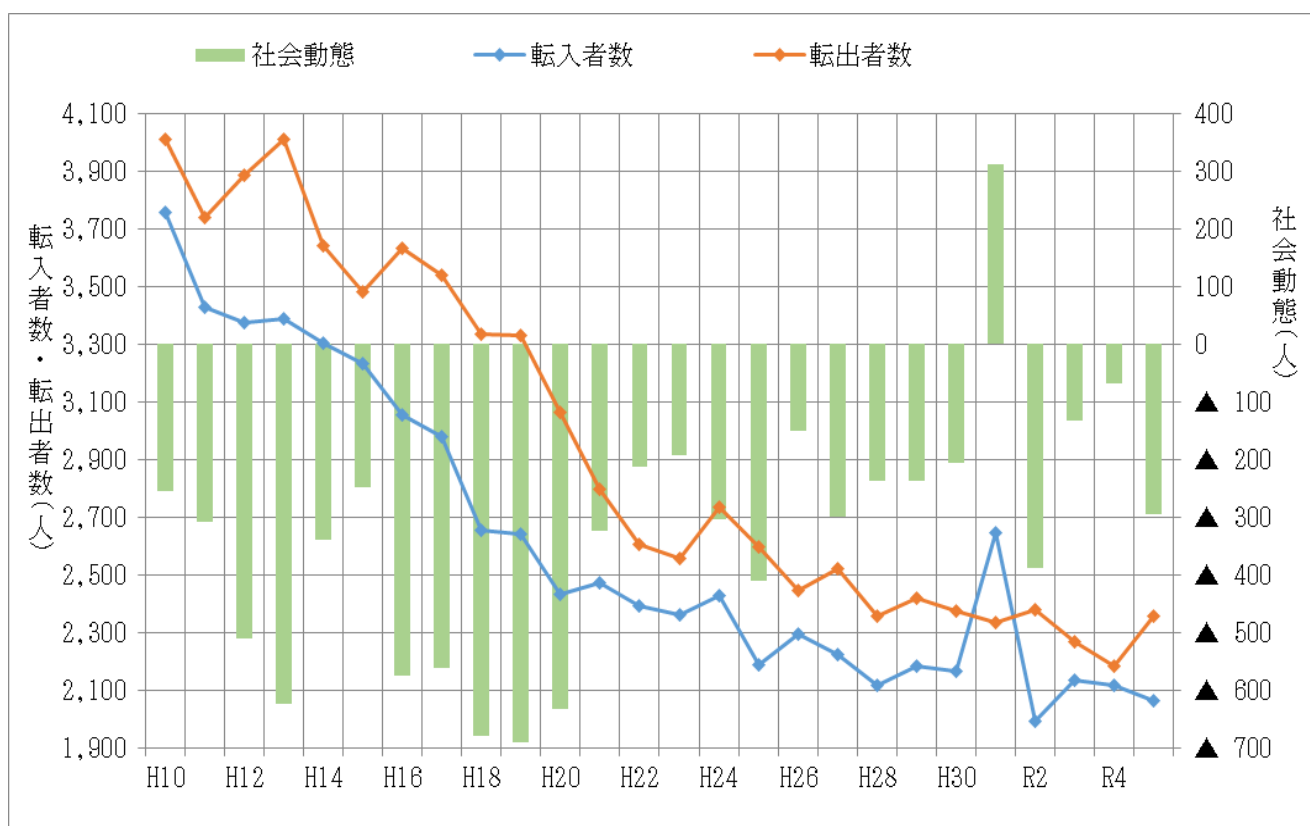
1998 (H10) 年以降の奄美市における転入者数から転出者数を差し引いた「社会動態」は、2019 (R1) を除き転出者数が転入数を上回る社会減の状態となっている。

1998 (H10) 年以降、社会減は増減を繰り返しながら、2007 (H19) 年には過去最高の▲689 人となる。その後も増減は繰り返しながら社会減の傾向は続いてきたが、2019 (R1) 年は奄美駐屯地開設の影響もあり、311 人の社会増となった。しかし、その後は再び、社会減が続いている。

「転入者数」をみると、2004 (H16) 年までは 3,000 人台であったが、2005 (H17) 年は 2,000 人台となり、2020 (R2) 年には一時期 1,000 人台まで落ち込んだが、この 3 年間は 2,000 人台で推移している。

「転出者数」をみると、2008 (H20) 年までは 3,000～4,000 人台を推移していたものの、2009 (H21) 年以降は 2,000 人台となり、2010 (H22) 年以降は、増減を繰り返しながら、2,000 人台で推移している。

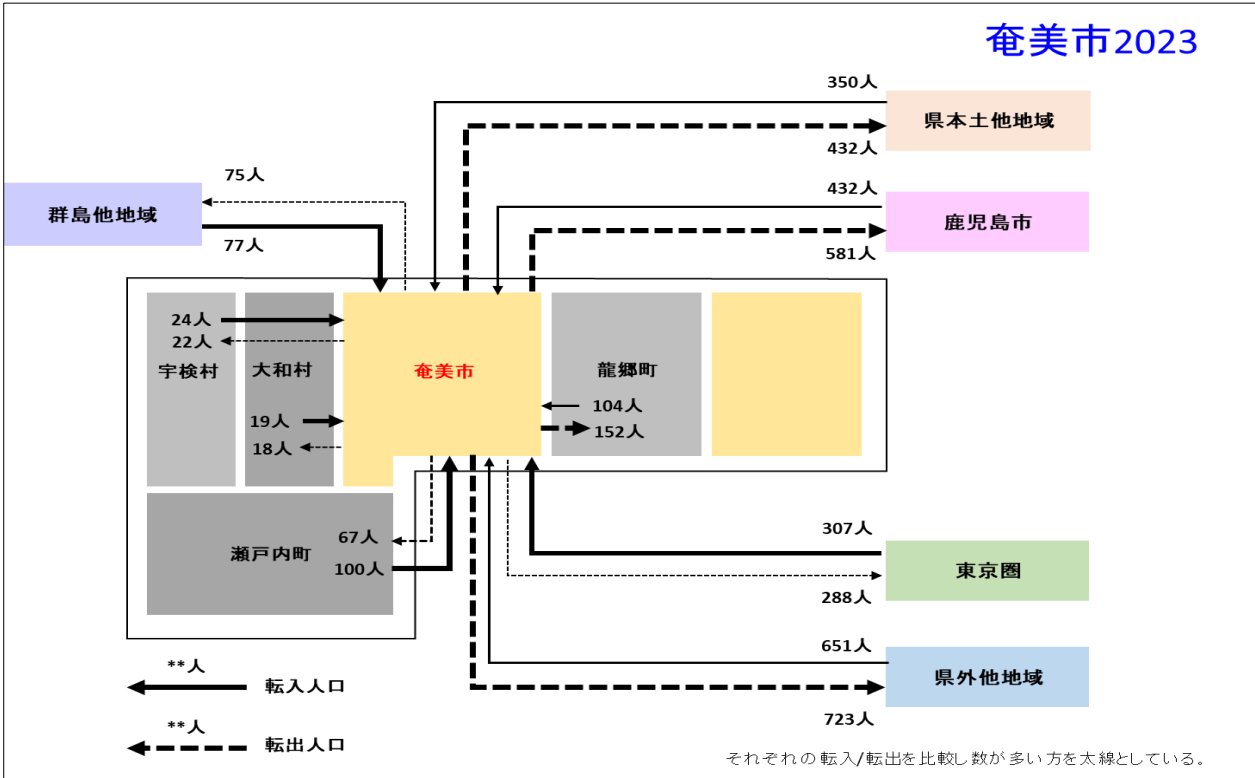
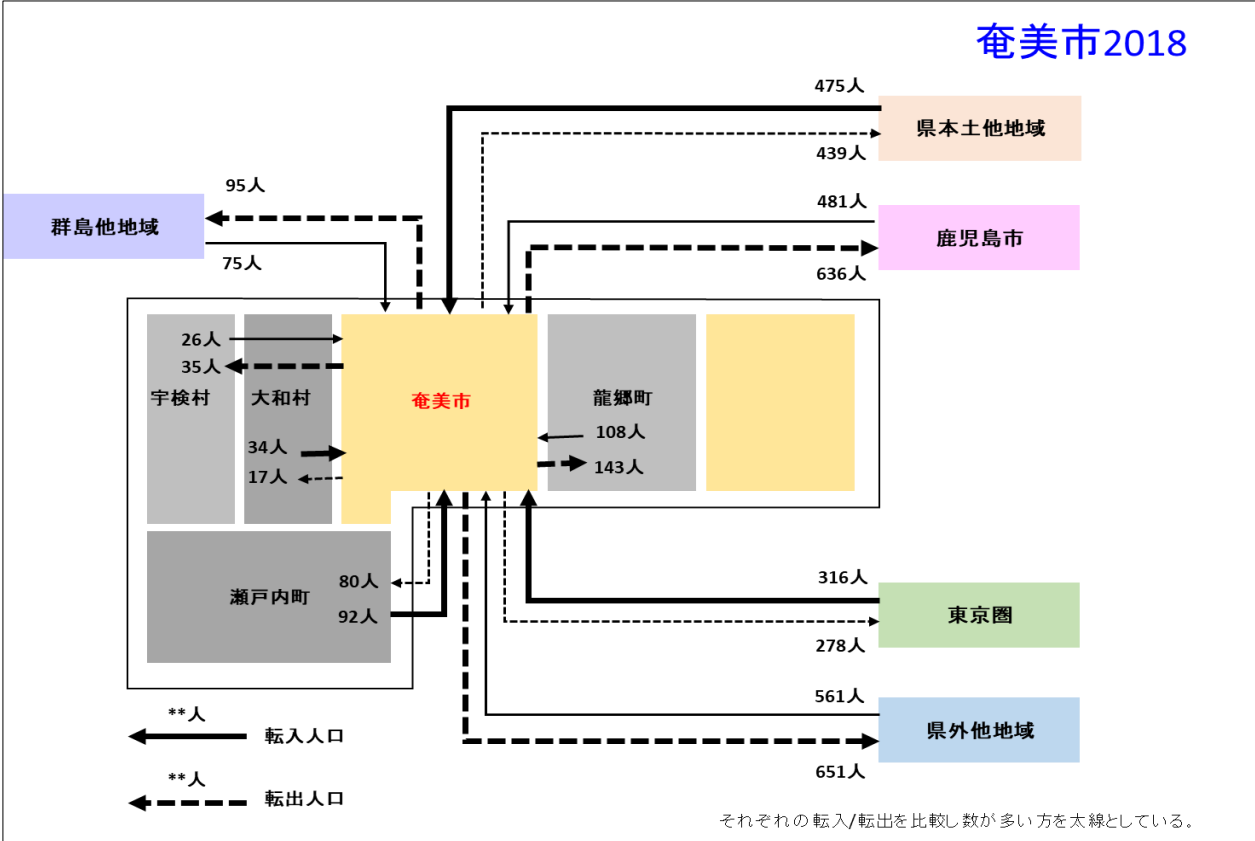
図表 1-3-24) 社会動態（転入者数・転出者数）の推移【奄美市】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

転入数から転出数を差し引いた「社会動態」は、前回の「奄美大島人口ビジョン」作成時に用いた 2018(H30)年と 2023(R5)年を比較すると、全体的に転出超過となっているが、引き続き、東京圏からは流入超過となっている。

図表 1-3-25) 社会動態（転入数・転出数）の 2018-2023 比較【奄美市】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

③ 人口の推移(15～49 歳)

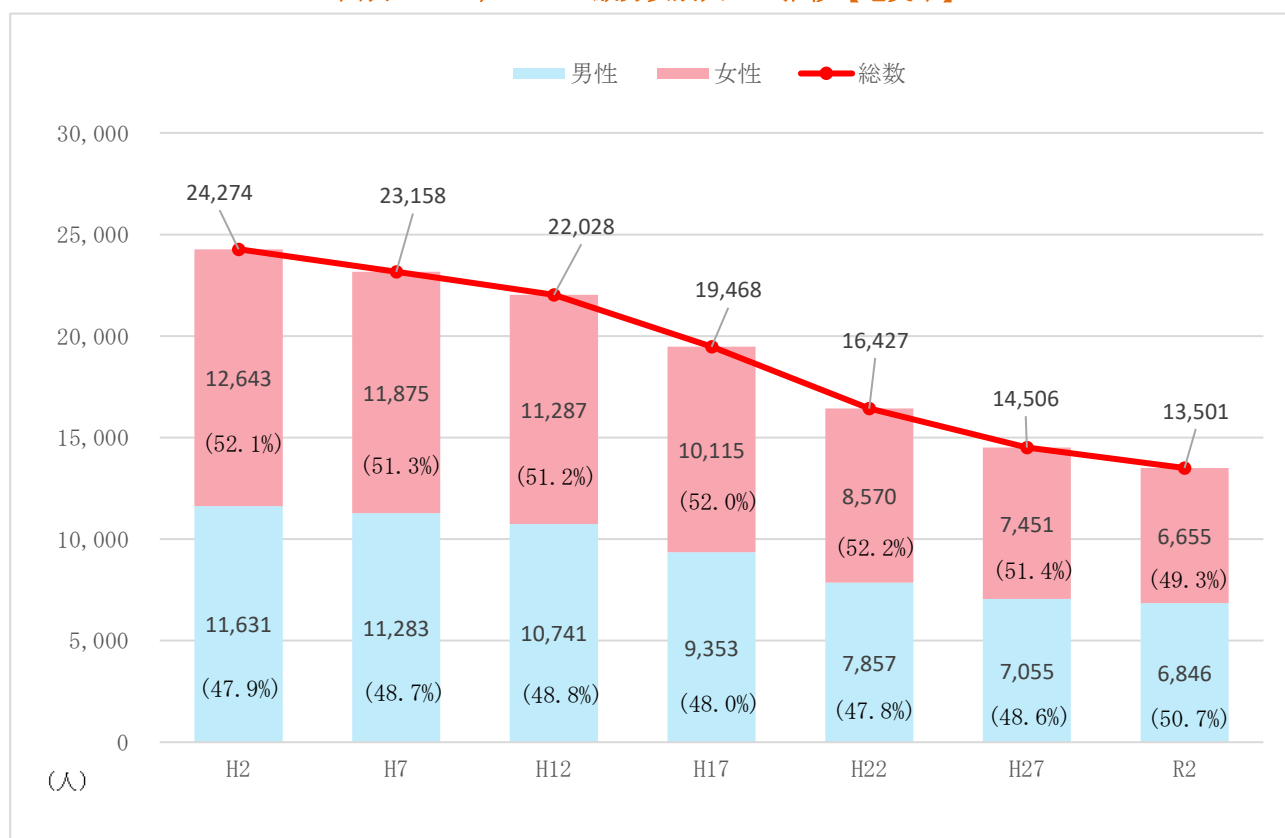
奄美市の 15 歳～49 歳の人口は、1990 (H2) 年は 24,274 人であったのに対し、2005 (H17) 年以降は 20,000 人を割り込み、その後も減少傾向をたどっている。2020 (R2) 年の減少率は低下しているものの、1990 (H2) 年と 2020 (R2) 年で実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 55.6%に減少している。

1990 (H2) 年には「15～49 歳の男性人口」が 11,631 人であったのに対し、2005 (H17) 年以降は 10,000 人を割り込み、2020 (R2) 年には 6,846 人まで落ち込んでいる。これも同じく実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 58.9%に減少している。

「15～49 歳の女性人口」についても、1990 (H2) 年には 12,643 人であったのに対し、2010 (H22) 年以降は 10,000 人を割り込み、2020 (R2) 年には 6,655 人まで落ち込んでいる。これを実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 52.6%に減少しており、男性より減少率が大きい。

総人口に占める男女の割合については、1990 (H2) 年では、男性が 47.9%、女性が 52.1%と女性の占める割合の方が多かったが、2020 (R2) 年では、男性が 50.7%、女性が 49.3%と男性の占める割合の方が多くなっている。

図表 1-3-26) 15～49 歳男女別人口の推移【奄美市】



出典：国勢調査

(3) 大和村

① 年齢3区分別人口の推移

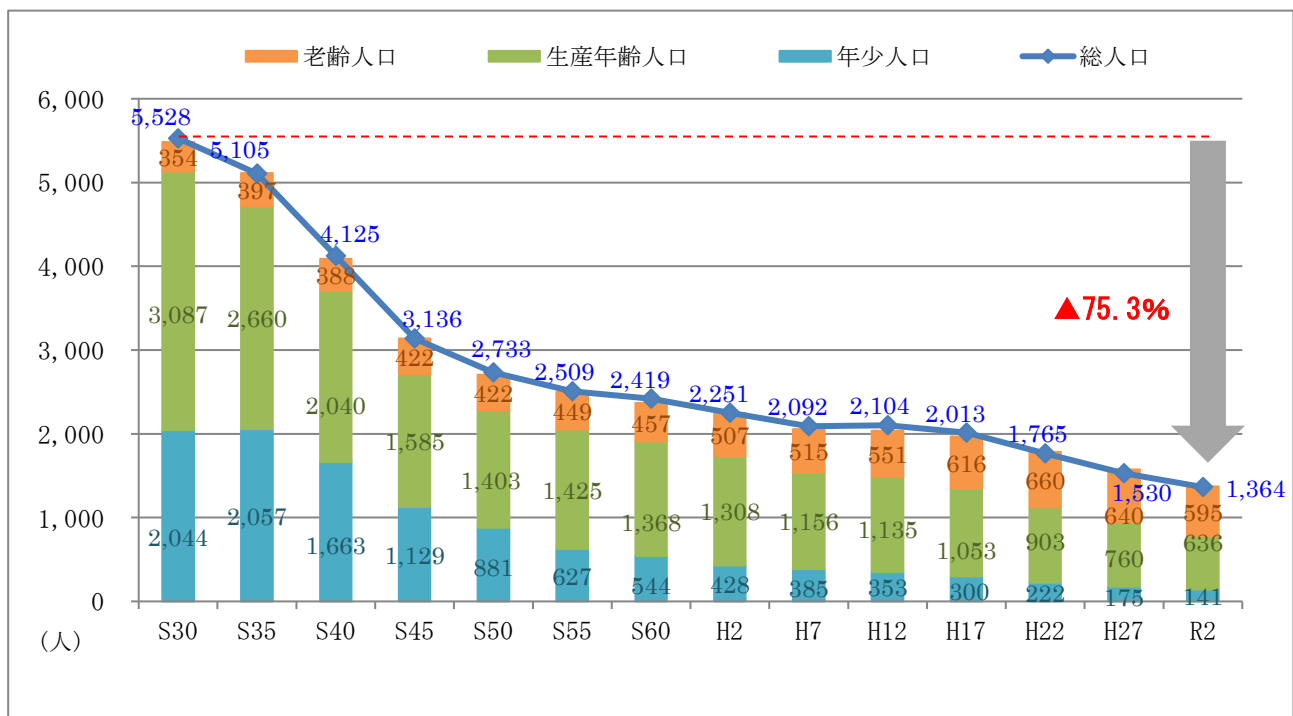
大和村の人口は、1955(S30)年以降、全体的には減少傾向をたどってきた。特に、1970(S45)年は減少率が1965(S40)年と比較して24.0%減と最も大きく減少したが、その後の減少率は低下し、2000(H12)年には一度、人口増加に転じたものの、再び減少傾向が続いている。

1955(S30)年の「年少人口」は37.0%を占める2,044人であったが、1960(S35)年及び1965(S40)年までは拡大したものの、1980(S55)年に30%台、1990(H2)年に20%台を割り込み、2020(R2)年には10.3%となっている。これを1955(S30)年と2020(R2)年とで実数比較(2020年/1955年)すると6.9%に縮小している。

「生産年齢人口」は1990(H2)年には58.1%となり最も高い水準に達し、それ以降50%台を維持していたが、2015(H27)には40%台となり、2020(R2)年には46.6%となっている。これを同じく実数比較(2020年/1955年)すると20.6%に縮小している。

一方で、「高齢人口」は1955(S30)年には7.2%であったものが、1965(S40)年に10%台、1985(S60)年に20%台、2005(H17)年に30%台を超え、2020(R2)年には40%台を超え、43.0%となっている。これを実数比較(2020年/1955年)すると168.1%に拡大している。

図表 1-3-31) 年齢3区分別人口の推移【大和村】



出典：国勢調査

図表 1-3-32) 年齢 3 区分別人口の割合【大和村】

年齢 区分	1960 (S35)	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	2020 (R2)
0~14	40.3%	36.0%	25.0%	19.0%	16.8%	12.6%	10.3%
15~64	52.1%	50.5%	56.8%	58.1%	53.9%	51.2%	46.7%
65~	7.6%	13.5%	18.2%	22.9%	29.3%	36.3%	43.0%

出典：鹿児島県の推計人口

② 人口動態（自然動態・社会動態）

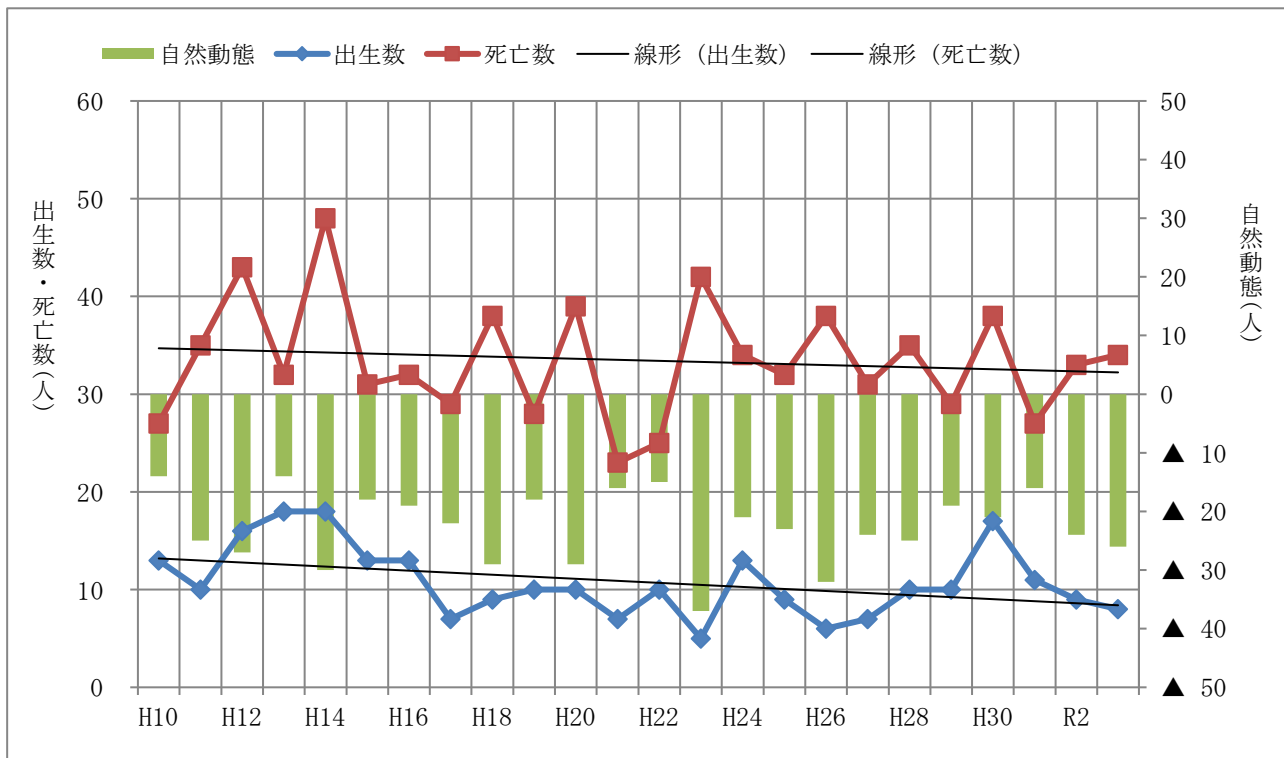
1998(H10)年以降の大和村における「自然動態」は、常に死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。

しかしながら、出生数及び死亡数の近似直線を重ねてみると、その傾きの差は小さく、緩やかな自然減が続いていることがわかる。

「死亡数」をみると年ごとにバラつきがあるが、近似直線からもわかるように、全体としては横ばい傾向にある。

「出生数」をみると、こちらも近似直線から全体的には減少傾向であることが確認できるが、実数としては2018(H30)年に17人と近年では特出して多いが、それ以外の年は10人前後で推移している。

図表 1-3-33) 自然動態（出生数・死亡数）の推移【大和村】



出典：奄美群島の概況

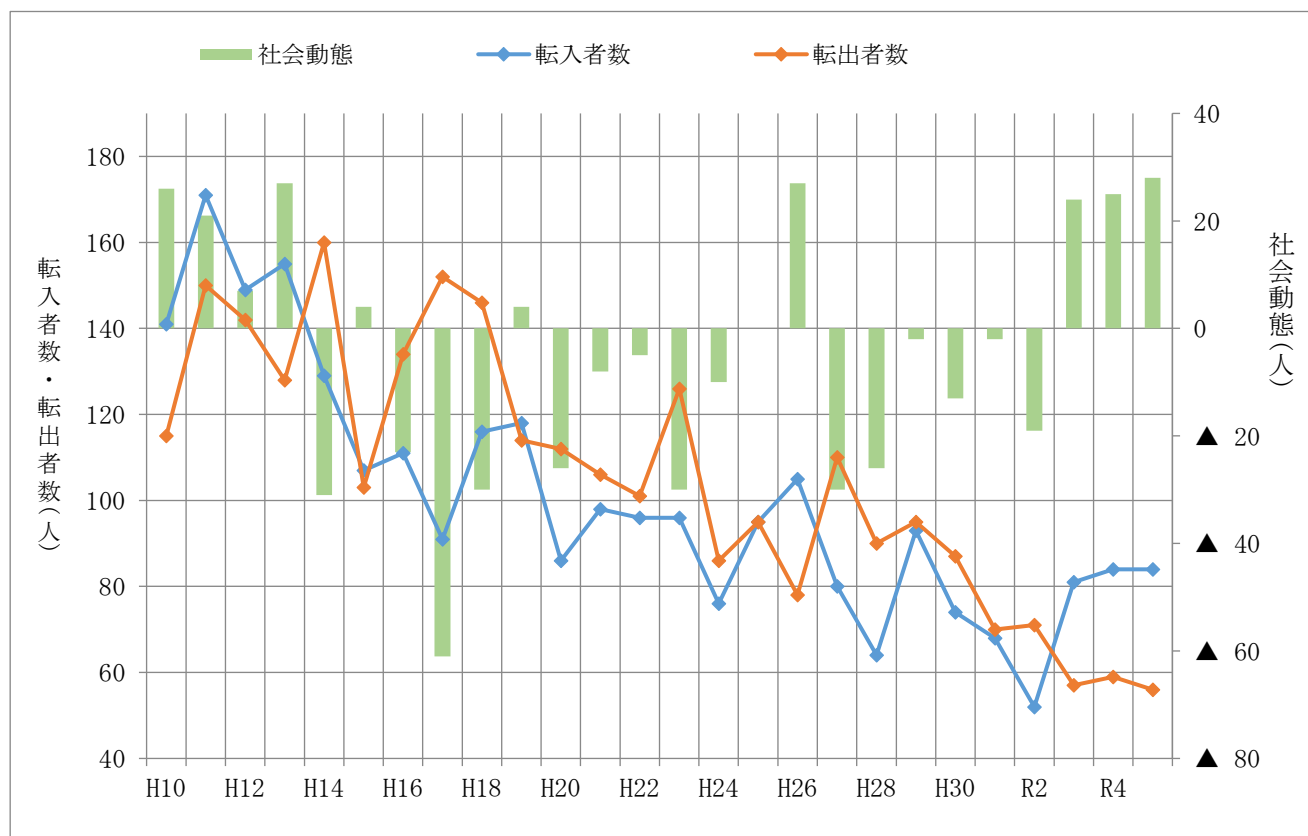
1998(H10)年以降の大和村における転入者数から転出者数を差し引いた「社会動態」は、社会増と社会減を繰り返している状態となっている。

1998(H10)年以降、001(H13)年までの4年間は社会増の傾向が続いていたが、2002(H14)年に社会減に転じると、それ以降は社会増に転じる年もあるものの、社会減の傾向が続いていた。2021(R3)以降は再び、社会増の傾向にある。

「転入者数」をみると、2004(H16)年までは100人台を維持していた。2005(H17)に一度、100人を割り込むものの、その後は、100人台を維持する年もあるなど増減を繰り返していたが、2015(H27)年以降は100人台を割り込んでいる状況が続いている。

「転出者数」をみると、2011(H23)年までは100人台で推移していたものが、2012(H24)年以降は100人を割り込み、2015(H27)年に一時は100人台になるが、それ以降は、減少傾向にある。

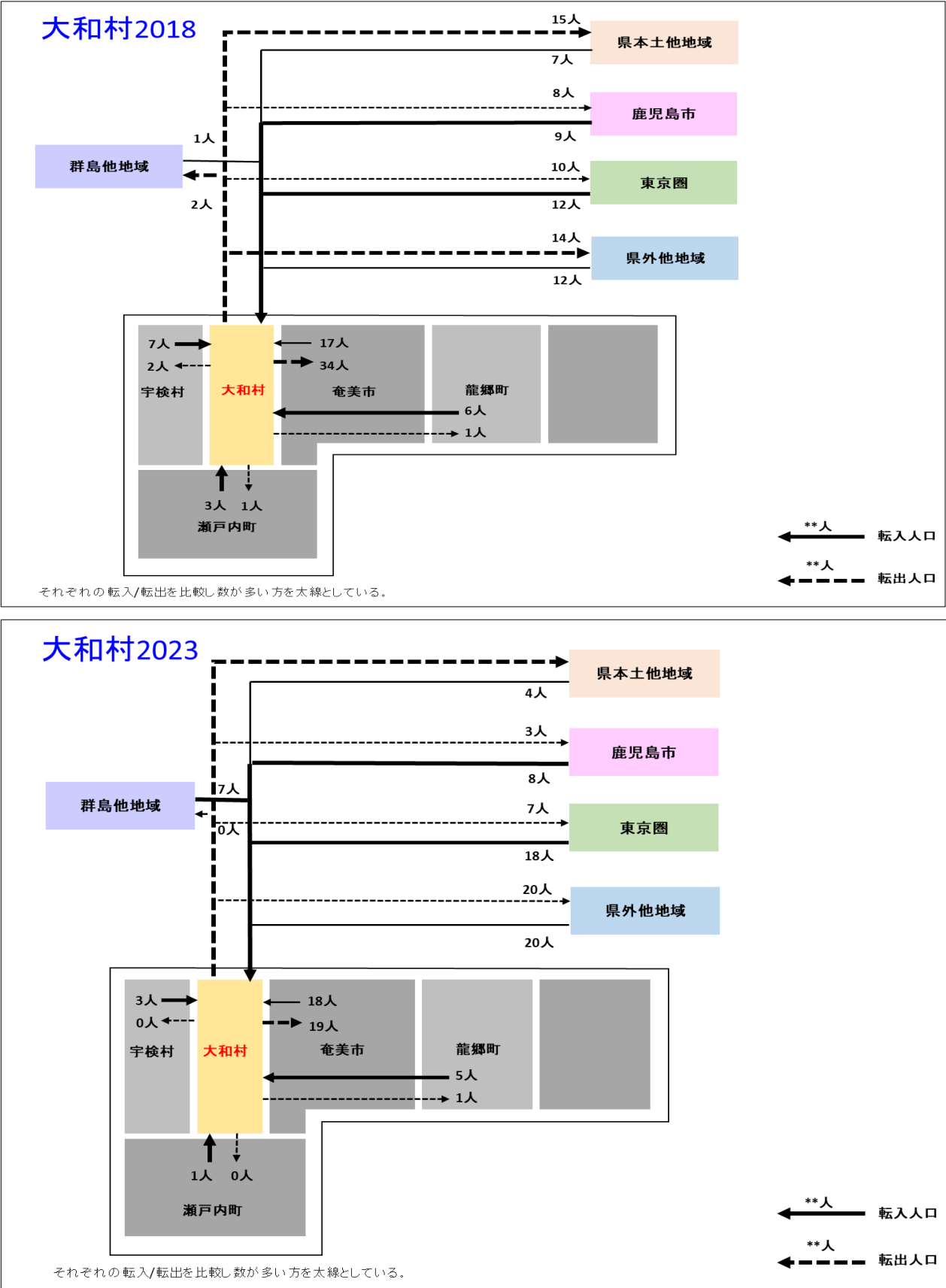
図表 1-3-34) 社会動態（転入者数・転出者数）の推移【大和村】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

「社会動態」は、全体的に 2018 (H30) 年は転出超過だったが、東京圏からの転入超過の影響もあり、全体的に 2023 (R5) 年では転入超過に転じている。

図表 1-3-35) 社会動態（転入数・転出数）の 2018-2023 比較【大和村】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

③ 人口の推移(15～49 歳)

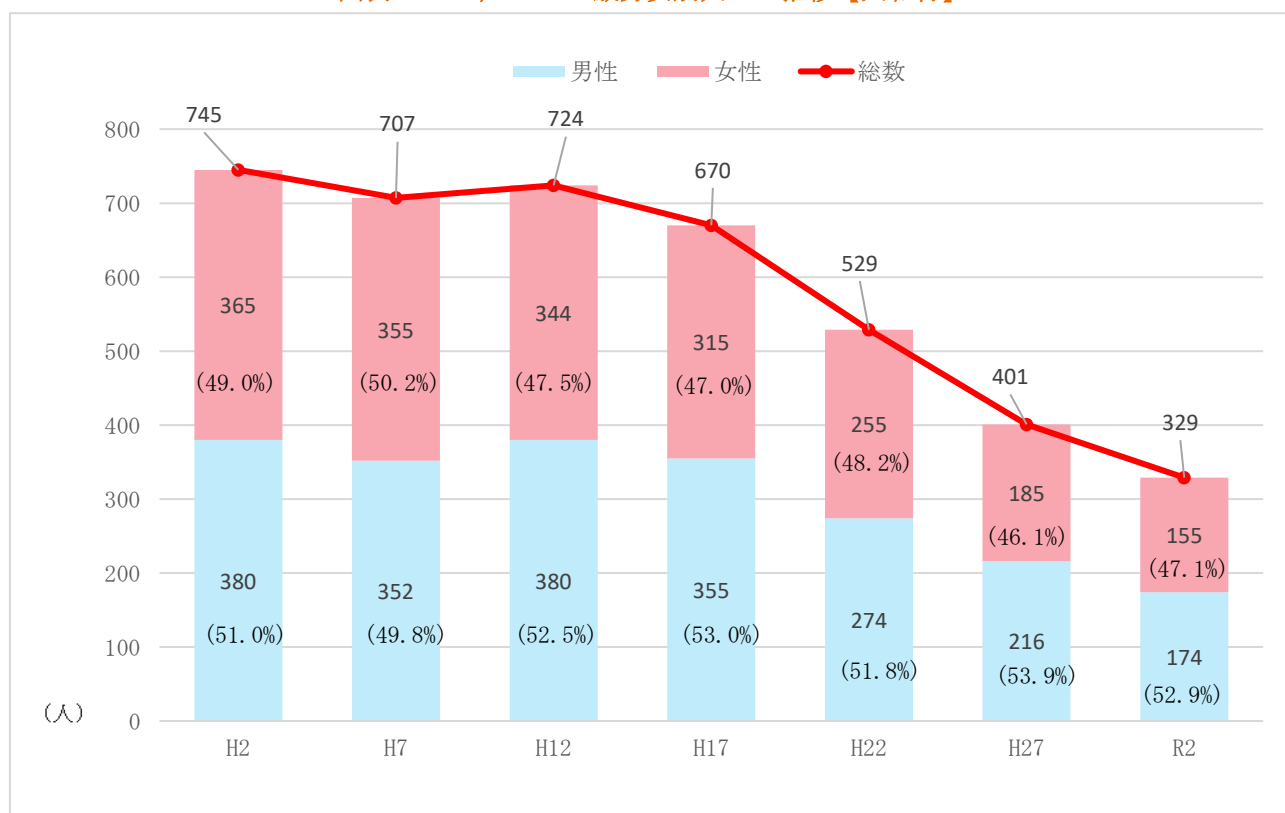
大和村の15歳～49歳の人口は、1990(H2)年と比べて1995(H7)年は減少したものの、2000(H12)年には一度、増加に転じた。しかし、その後は再び、減少傾向をたどっている。特に2015(H27)年は減少率が2010(H22)年と比べて24.2%減と最も大きく減少した。2020(R2)年の減少率は低下しているものの、これを1990(H2)年と2020(R2)年で実数比較(2020年/1990年)すると約44.2%に減少している。

「15～49歳の男性人口」は、1990(H2)年と比べて1995(H7)は減少したもの、2000(H12)年には一度、増加に転じた。しかし、その後は再び、減少傾向をたどっており、2020(R2)年には174人まで落ち込んでいる。これも同じく実数比較(2020年/1990年)すると約45.8%に減少している。

「15～49歳の女性人口」については、1990(H2)年には365人であったのに対し、2010(H22)年には300人を、さらに2015(H27)年には200人を割り込み、2020(R2)年には155人となっている。これを実数比較(2020年/1990年)すると約42.5%に減少しており、男性より減少率が高い。

総人口に占める男女の割合については、1990(H2)年では、男性が51.0%、女性が49.0%と男性の占める割合が大きかったが、2020(R2)になると、男性が52.9%、女性が47.1%となり、男性の占める割合が若干大きくなっている。

図表 1-3-36) 15～49 歳男女別人口の推移【大和村】



出典：国勢調査

(4) 宇検村

① 年齢3区分別人口の推移

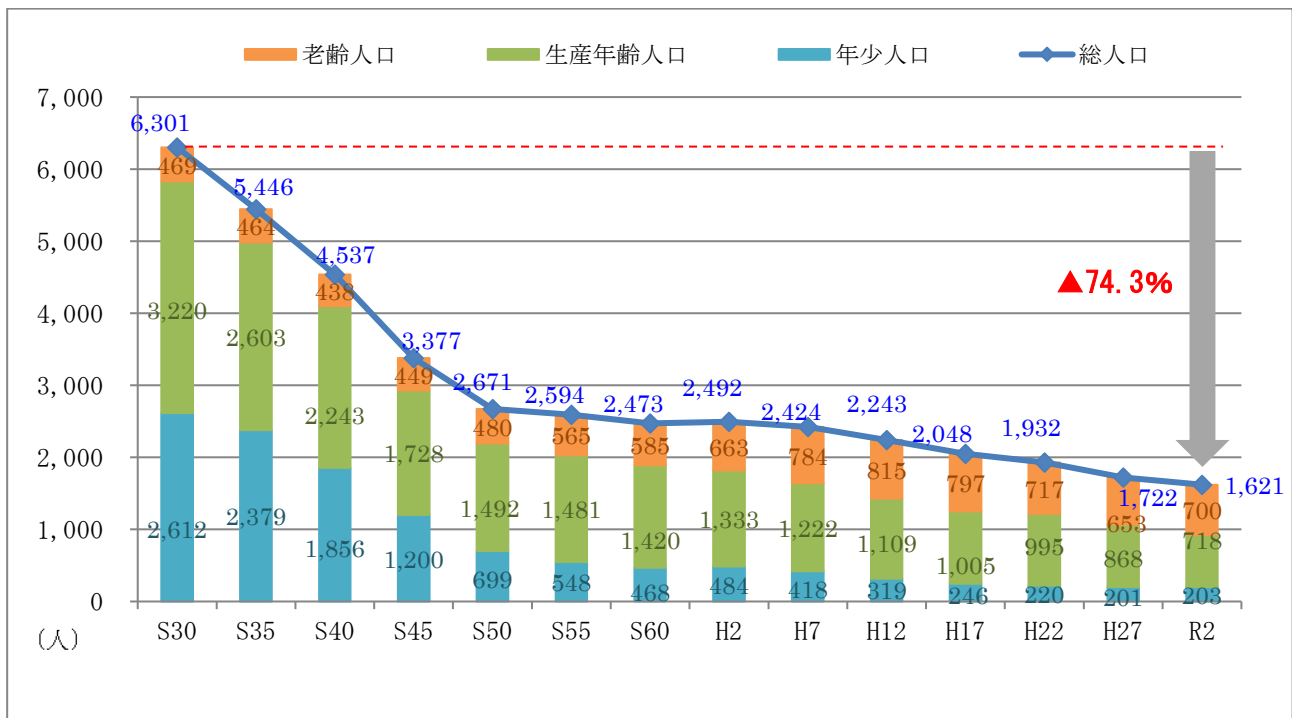
宇検村の人口は、1955（S30）年以降、全体的には減少傾向をたどってきた。特に、1970（S45）年は減少率が1965（S40）年と比較して25.6%減と最も大きく減少したが、その後の減少率は低下し、1990（H2）年には一度、人口増加に転じたものの、再び減少傾向が続いている。

1955（S30）年の「年少人口」は41.5%を占める2,612人であり、1960（S35）年までは拡大したものの、1975（S50）年に30%台、1985（S60）年に20%台を割り込み、2020（R2）年には12.5%となっている。これを1955（S30）年と2020（R2）年とで実数比較（2020年/1955年）すると7.8%に縮小している。

「生産年齢人口」は、1985（S60）年には57.4%を占める高い水準に達しており、その他の年代も50%台付近を推移していることから、なだらかな凸型となっていたが、2020（R2）年には44.3%となっている。これを同じく実数比較（2020年/1955年）すると22.3%に縮小している。

一方で、「高齢人口」は1955年には7.4%であったものが、1970（S45）年に10%台、1980（S55）年に20%台、1995（H7）年に30%台を超え、2020（R2）年には43.2%と40%台を超えている。これを実数比較（2020年/1955年）すると149.3%に拡大している。

図表 1-3-41) 年齢3区分別人口の推移【宇検村】



出典：国勢調査

図表 1-3-42) 年齢 3 区分別人口の割合【宇検村】

年齢 区分	1960 (S35)	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	2020 (R2)
0~14	43.7%	35.5%	21.1%	19.5%	14.2%	11.4%	12.5%
15~64	47.8%	51.2%	57.1%	53.8%	49.4%	51.5%	44.3%
65~	8.5%	13.3%	21.8%	26.7%	36.3%	37.1%	43.2%

出典：鹿児島県の推計人口

② 人口動態（自然動態・社会動態）

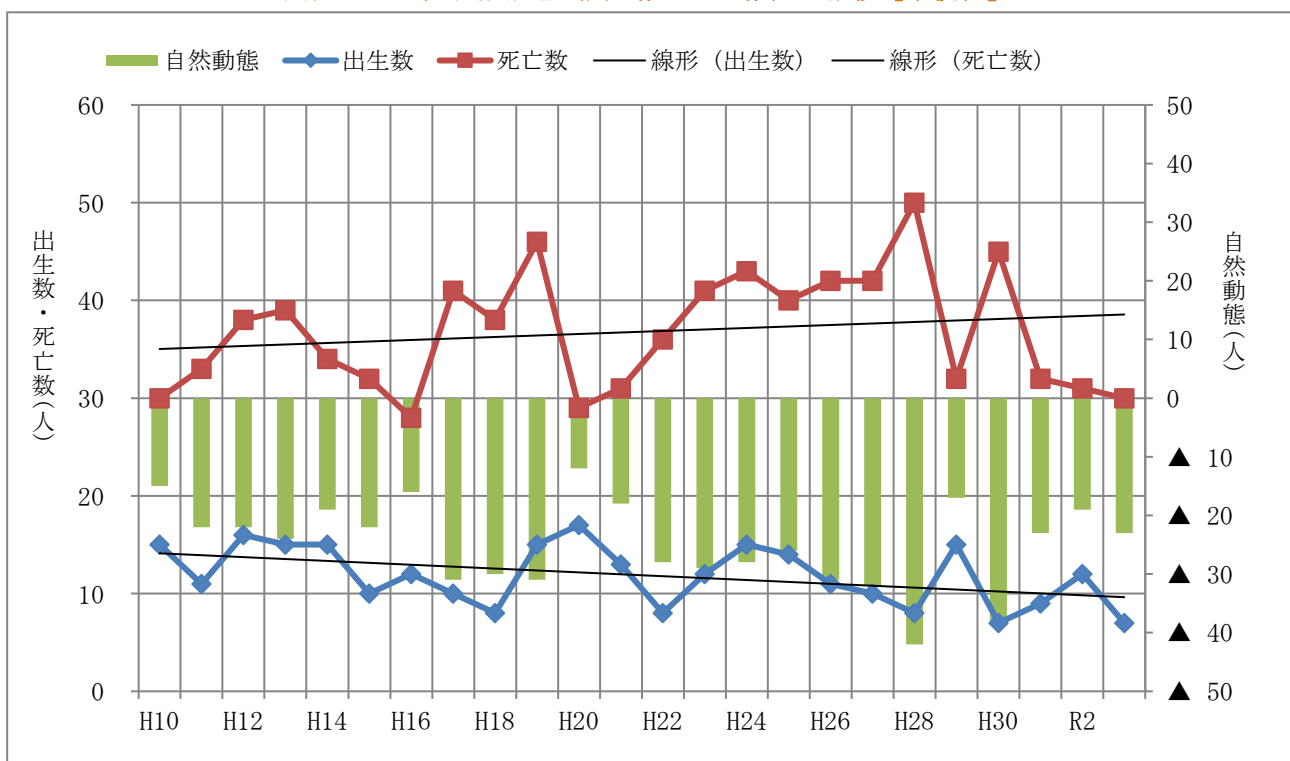
1998(H10)年以降の宇検村における「自然動態」は、常に死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。

出生数及び死亡数の近似直線を重ねてみると、横ばい傾向ではあるが、後年度に向け「ハ」の字型を形成しつつある状況である。

「死亡数」をみると増減を繰り返しながら 30～50 人で推移しているが、ここ 3 年間は減少傾向にある。

「出生数」をみると、全体的に減少傾向のなか増減を繰り返しながら、近年は 10 人近傍で推移している。

図表 1-3-43) 自然動態（出生数・死亡数）の推移【宇検村】



出典：奄美群島の概況

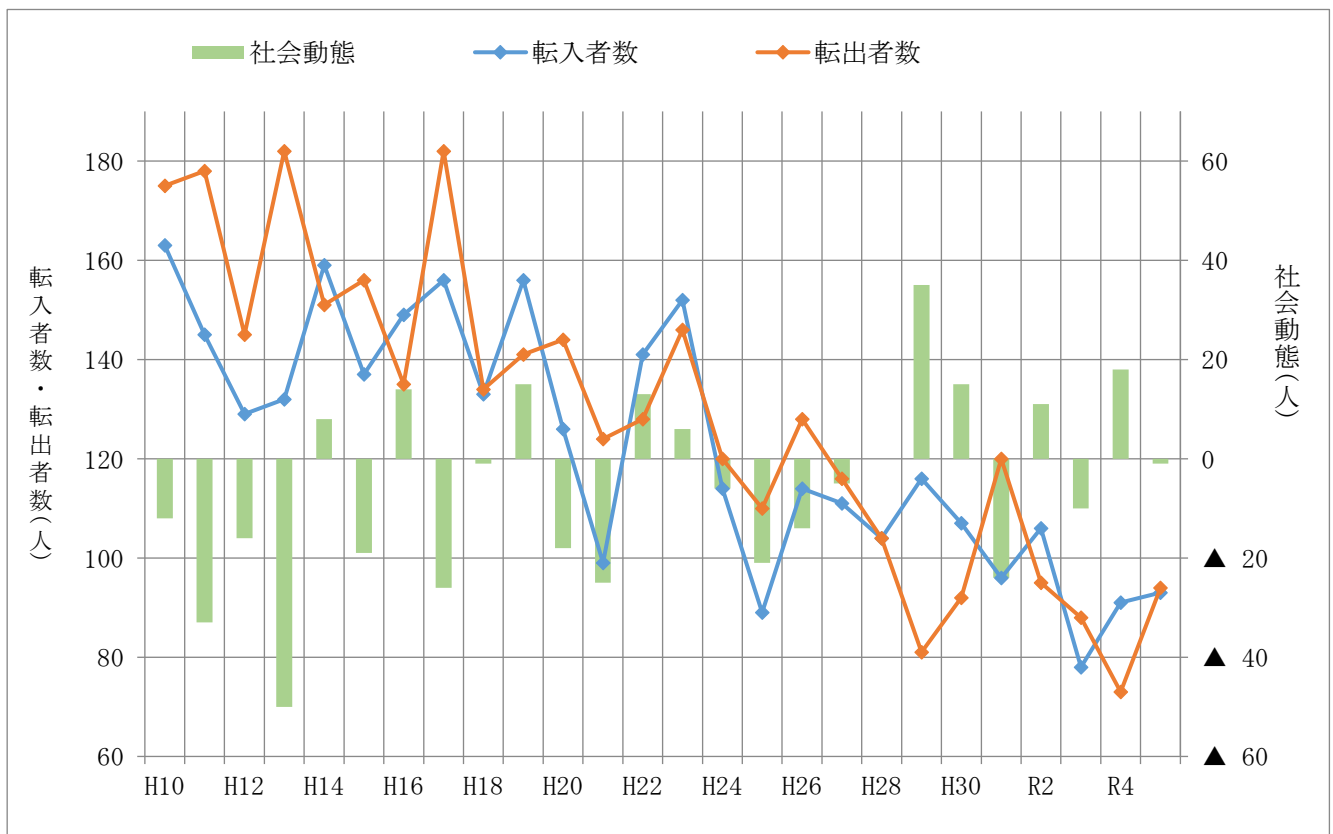
1998 (H10) 年以降の宇検村における転入者数から転出者数を差し引いた「社会動態」は、社会増と社会減を繰り返している状態となっている。

1998 (H10) 年以降、2001 (H13) 年までの 4 年間は社会減の傾向が続いていたが、2002 (H14) 年に社会増に転じると、それ以降は社会減と社会増の年を繰り返している。

「転入者数」をみると、2008 (H20) 年までは 100 人台を維持していた。2009 (H21) に一度、100 人を割り込むものの、その後は 100 人台を維持する年もあるなど 増減を繰り返していたが、2021 (R3) 年以降は 100 人台を割り込んでいる状況が続いている。

「転出者数」をみると、2016 (H28) 年までは 100 人台を推移していたものの、2017 (H29) 年は 100 人台を割り込み、2019 (R1) 年に一時は 100 人台になるが、それ以降は、減少傾向にある。

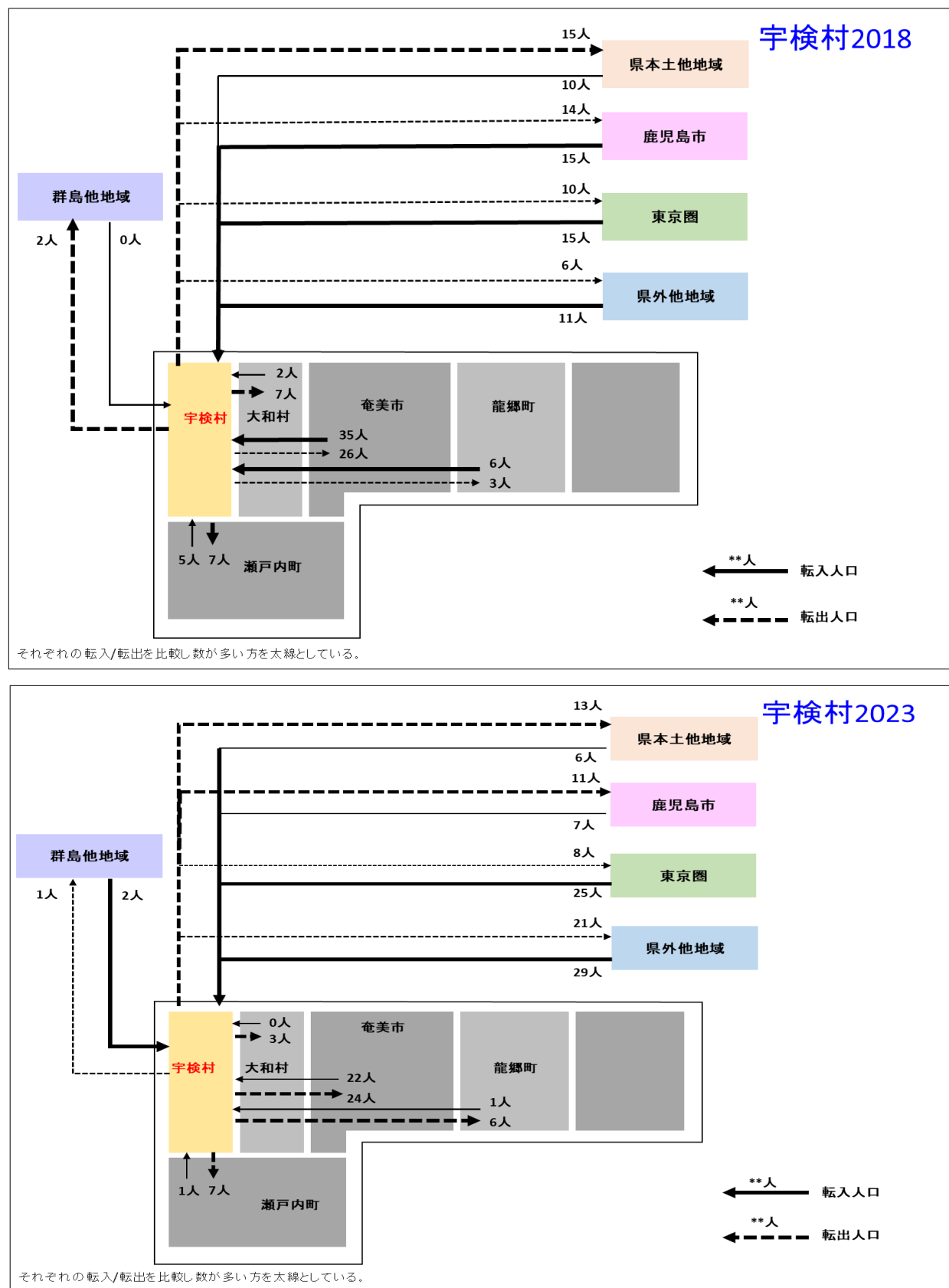
図表 1-3-44) 社会動態（転入者数・転出者数）の推移【宇検村】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

「社会動態」は、2018(H30)年と 2023(R5)年と比較すると、東京圏からの転入者が増加していることもあり、全体的にまだ転出超過であるが、転出低下に転じている。

図表 1-3-45) 社会動態（転入数・転出数）の 2018-2023 比較【宇検村】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

③ 人口の推移(15～49 歳)

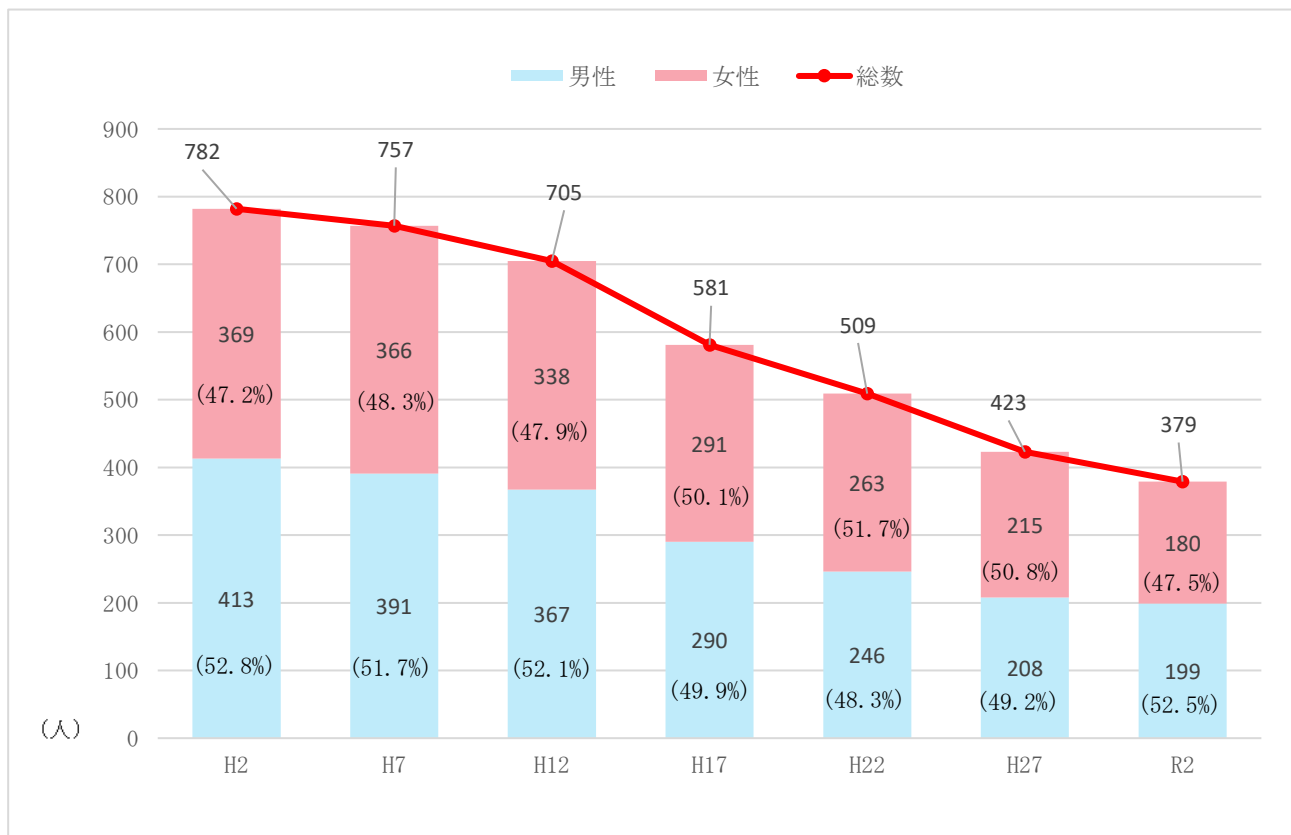
宇検村の 15 歳～49 歳の人口は、1990 (H2) 年以降、全体的には減少傾向をたどってきた。特に 2015 (H27) 年は減少率が 2010 (H22) 年と比べて 16.9%減と最も大きく減少した。2020 (R2) 年の減少率は低下しているものの、これを 1990 (H2) 年と 2020 (R2) 年で実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 48.5%に減少している。

「15～49 歳の男性人口」は、413 人であったのに対し、1995 (H7) 年には 400 人を割り込み、さらに 2005 (H17) 年には 200 人台となり、2020 (R2) 年には 199 人まで落ち込んでいる。これも同じく実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 48.2%に減少している。

「15～49 歳の女性人口」についても、1990 (H2) 年には 369 人であったのに対し、2005 (H17) 年には 300 人を割り込み、2020 (R2) 年には 180 人まで落ち込んでいる。これを実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 48.8%に減少しており、男性より減少率大きい。

総人口に占める男女の割合については、1990 (H2) 年では、男性が 52.8%, 女性が 47.2% だった。割合は、2020 (R2) 年には、男性が 52.5%、女性が 47.5%となり占める割合にほぼ変化はなかった。

図表 1-3-46) 15～49 歳男女別人口の推移【宇検村】



出典：国勢調査

(5) 瀬戸内町

① 年齢3区分別人口の推移

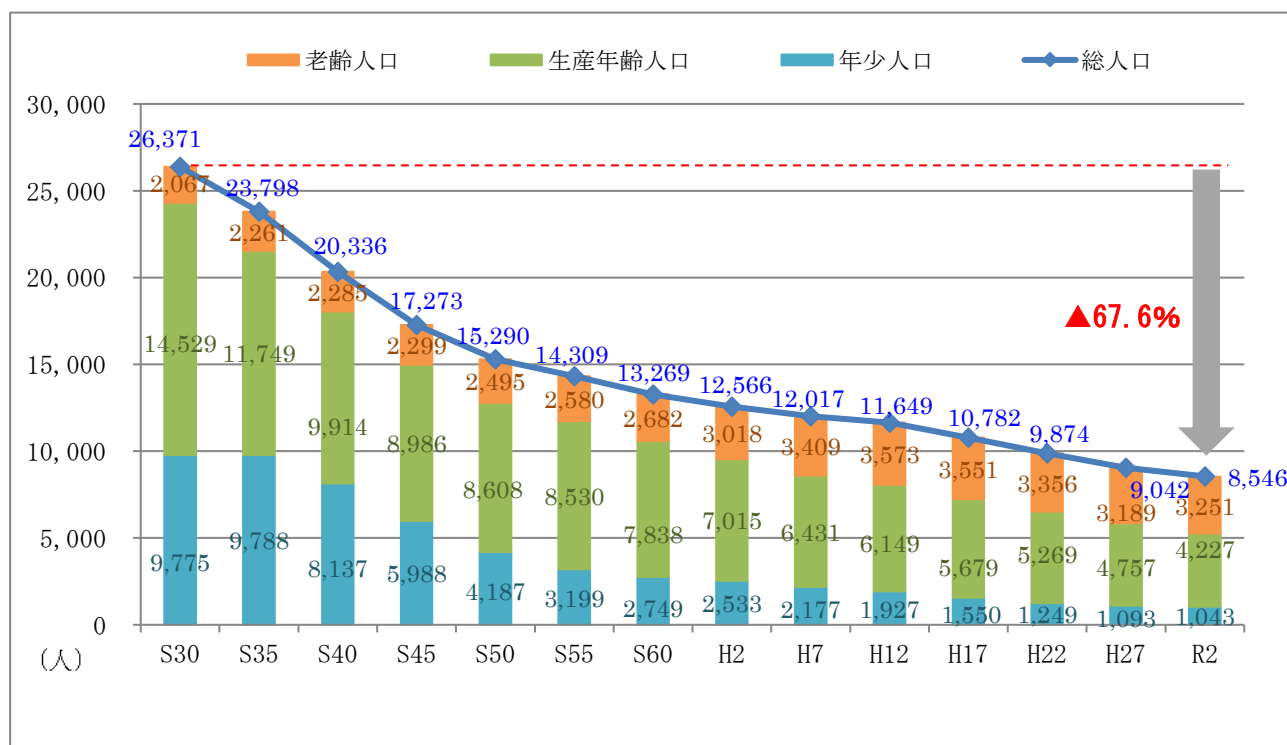
瀬戸内町の人口は、1955(S30)年以降、全体的には減少傾向をたどってきた。特に、1970(S45)年は減少率が1965(S40)年と比べて15.1%減と最も大きく減少した。その後の減少率は低下してきたものの、2005(H17)年以降に再び減少率が高まっている。

1955(S30)年の「年少人口」は37.1%を占める9775人であったが、1960(S35)年までは拡大したものの、1975(S50)年には30%台、1995(H7)年には20%台を割り込み、2020(R2)年には12.2%となっている。これを1955(S30)年と2020(R2)年とで実数比較(2020年/1955年)すると10.7%に縮小している。

「生産年齢人口」は、1980(S55)年には59.6%を占める高い水準に達しており、その他の年代も概ね50%台となっており、なだらかな凸型となっていたが、2020(R2)年には50%台を割り込み、49.5%となっている。これも同じく実数比較(2020年/1955年)すると29.1%に縮小している。

一方で、「高齢人口」は1955(S30)年には7.8%であったものが、1965(S40)年に10%台、1985(S60)年に20%台、2000(H12)年に30%台を超え、2020(R2)年には38.0%となっている。これを実数比較(2020年/1955年)すると157.3%に拡大している。

図表 1-3-51) 年齢3区分別人口の推移【瀬戸内町】



出典：国勢調査

図表 1-3-52) 年齢 3 区分別人口の割合【瀬戸内町】

年齢 区分	1960 (S35)	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	2020 (R2)
0~14	41.1%	34.7%	22.4%	20.2%	16.5%	12.6%	12.2%
15~64	49.4%	52.0%	59.6%	55.8%	52.8%	53.4%	49.6%
65~	9.5%	13.3%	18.0%	24.0%	30.7%	34.0%	38.2%

出典：鹿児島県の推計人口

② 人口動態（自然動態・社会動態）

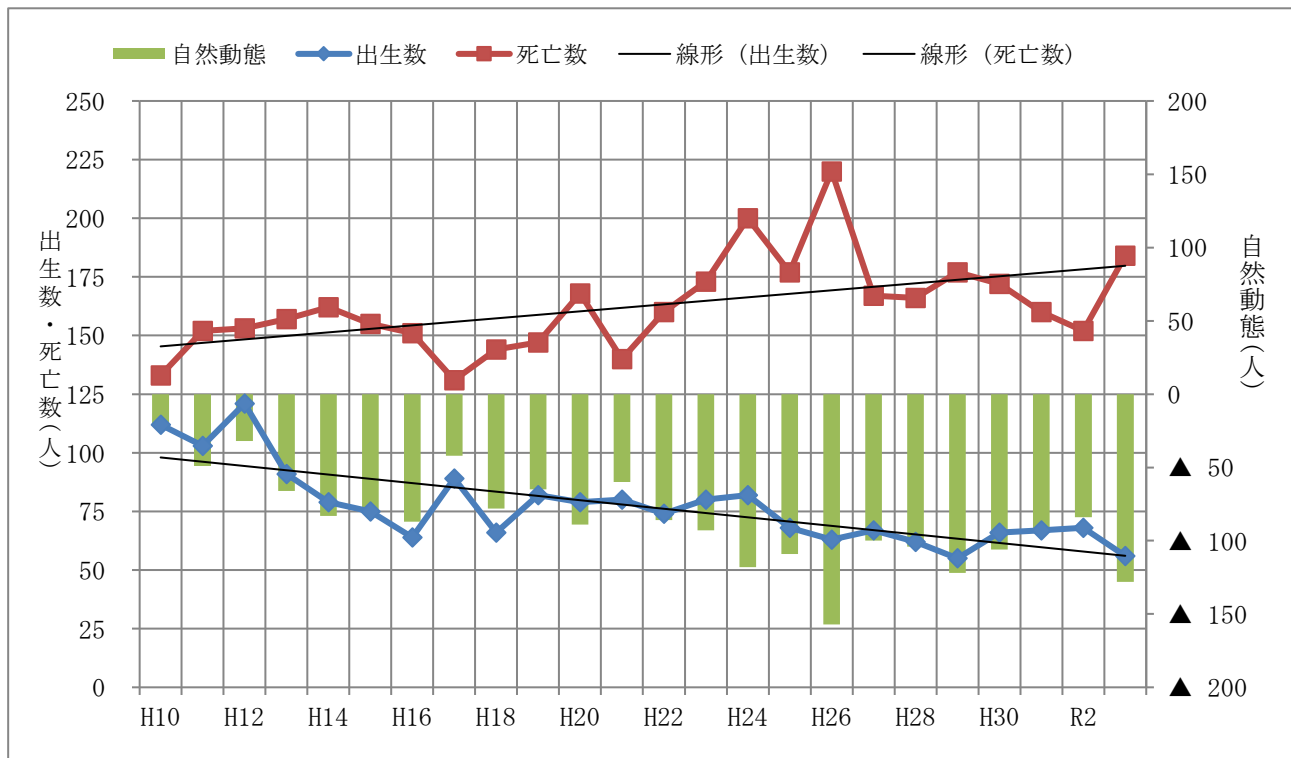
1998 (H10) 年以降の瀬戸内町における「自然動態」は、常に死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。

出生数及び死亡数の近似直線を重ねてみると、後年度に向けて「ハ」の字型を形成しており、2012 (H24) 年以降は自然動態が▲100 を超える状況で推移している。

「死亡数」をみると、1998 (H10) 年から 2010 (H22) 年までの 13 年間は 150 人前後で推移していたものが、2012 (H24) 年と 2014 (H26) 年には 200 人を超えるなど増加傾向にあったが、近年は 150~180 人前後で推移している。

「出生数」をみると、1998 (H10) 年頃は 100 人を超えていたものが、2013 (H25) 年以降、継続的に 75 人を下回る状況となってきた。

図表 1-3-53) 自然動態（出生数・死亡数）の推移【瀬戸内町】



出典：奄美群島の概況

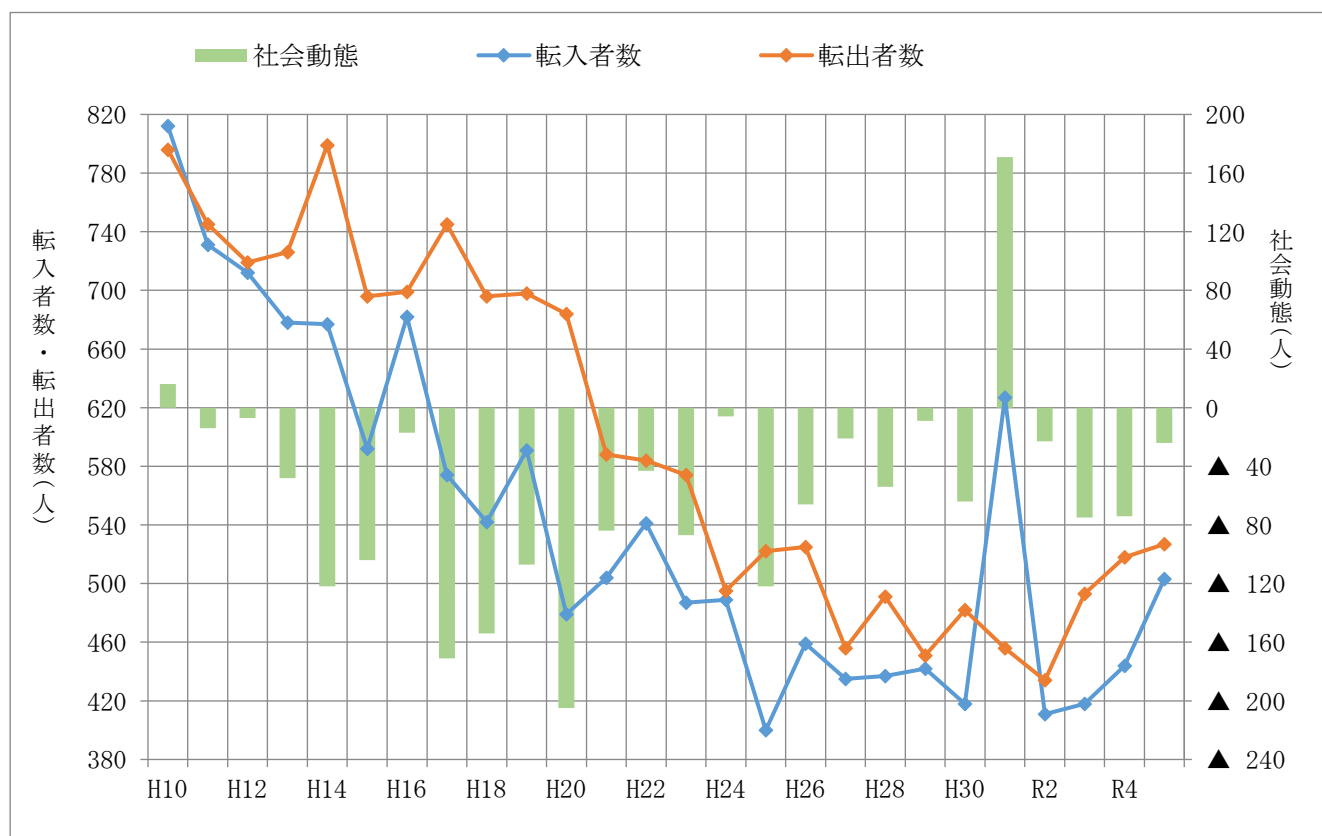
1998(H10)年以降の瀬戸内町における転入者数から転出者数を差し引いた「社会動態」は、1998(H10)と2019(R1)を除き転出者数が転入数を上回る社会減の状態となっている。

1998(H10)年以降、社会減は増減を繰り返しながら、2008(H20)年には過去最高の▲205人となる。その後も増減は繰り返しながら社会減の傾向は続いてきたが、2019(R1)年は、奄美駐屯地開設の影響もあり、171人の社会増となった。しかし、その後は再び、社会減が続いている。

「転入者数」をみると、1998(H10)年は800人台であったが、1999(H11)年以降は増減を繰り返しながら、減少傾向が続いていたが、この3年間は増加傾向にあり2023(R5)には、再び500人台となっている。

「転出者数」をみると、1998(H10)年以降、増減を繰り返しながらも、減少傾向が続き、500人台も割り込んでいたが、この2年間は500人台を推移しており、再び増加傾向にある。

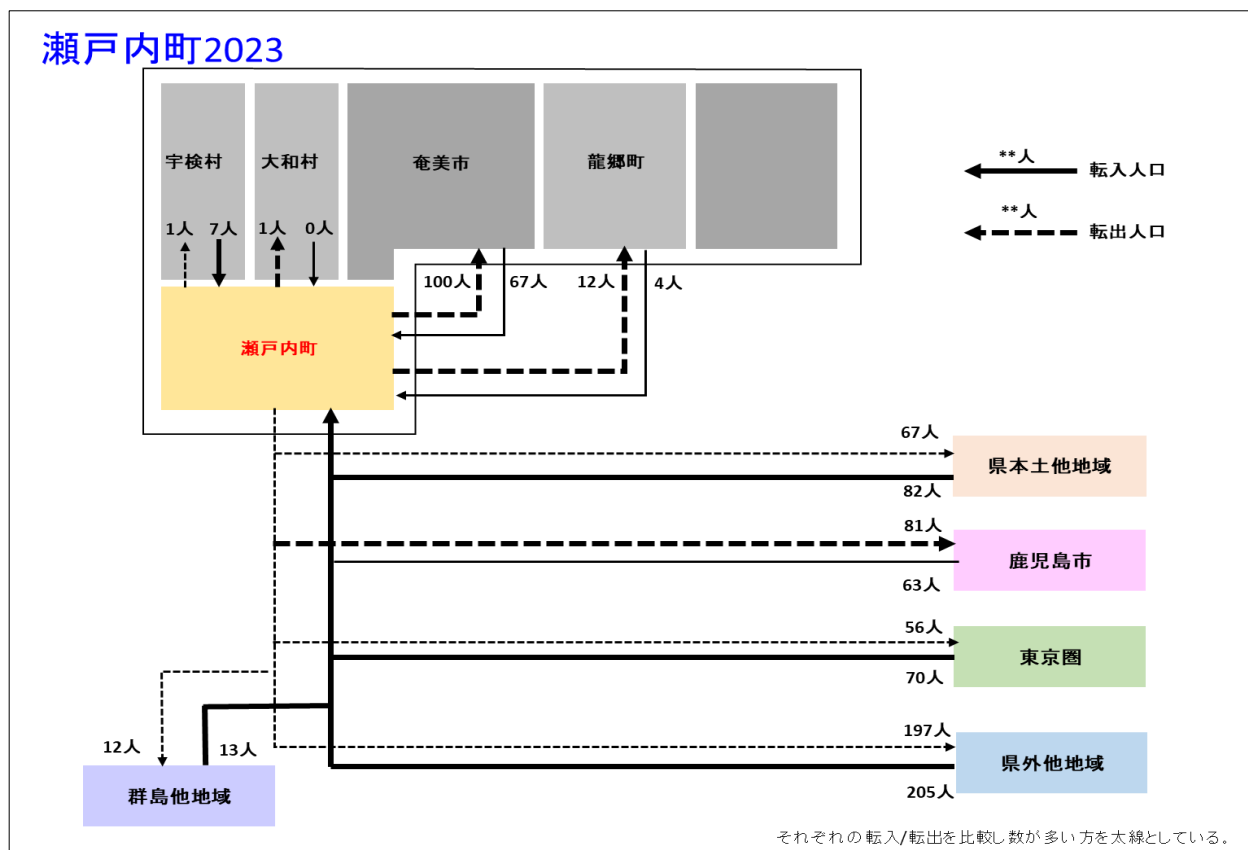
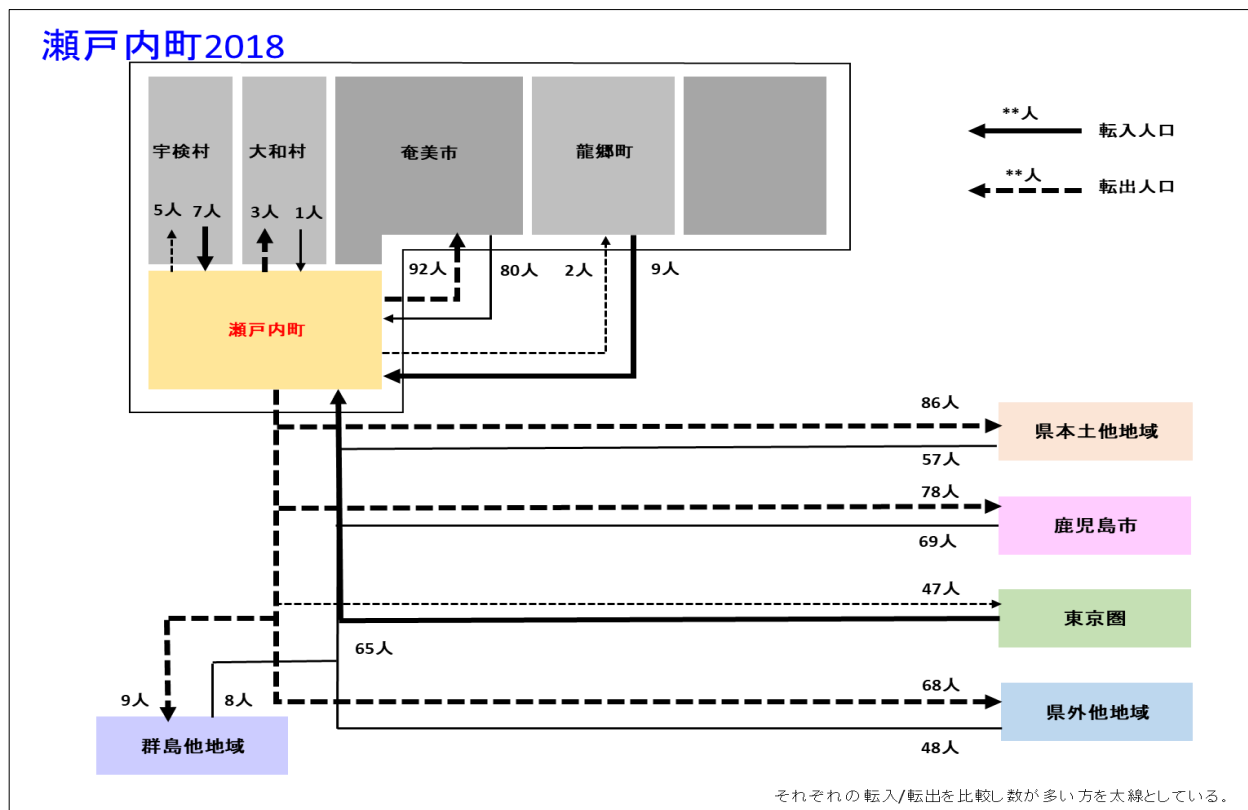
図表 1-3-54) 社会動態（転入者数・転出者数）の推移【瀬戸内町】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

「社会動態」は、東京圏からは流入超過であるほか、2018(H30)年と2023(R5)年を比較すると、全体的に流出低下に転じている。

図表 1-3-55) 社会動態（転入数・転出数）の2018-2023 比較【瀬戸内町】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

③ 人口の推移(15～49 歳)

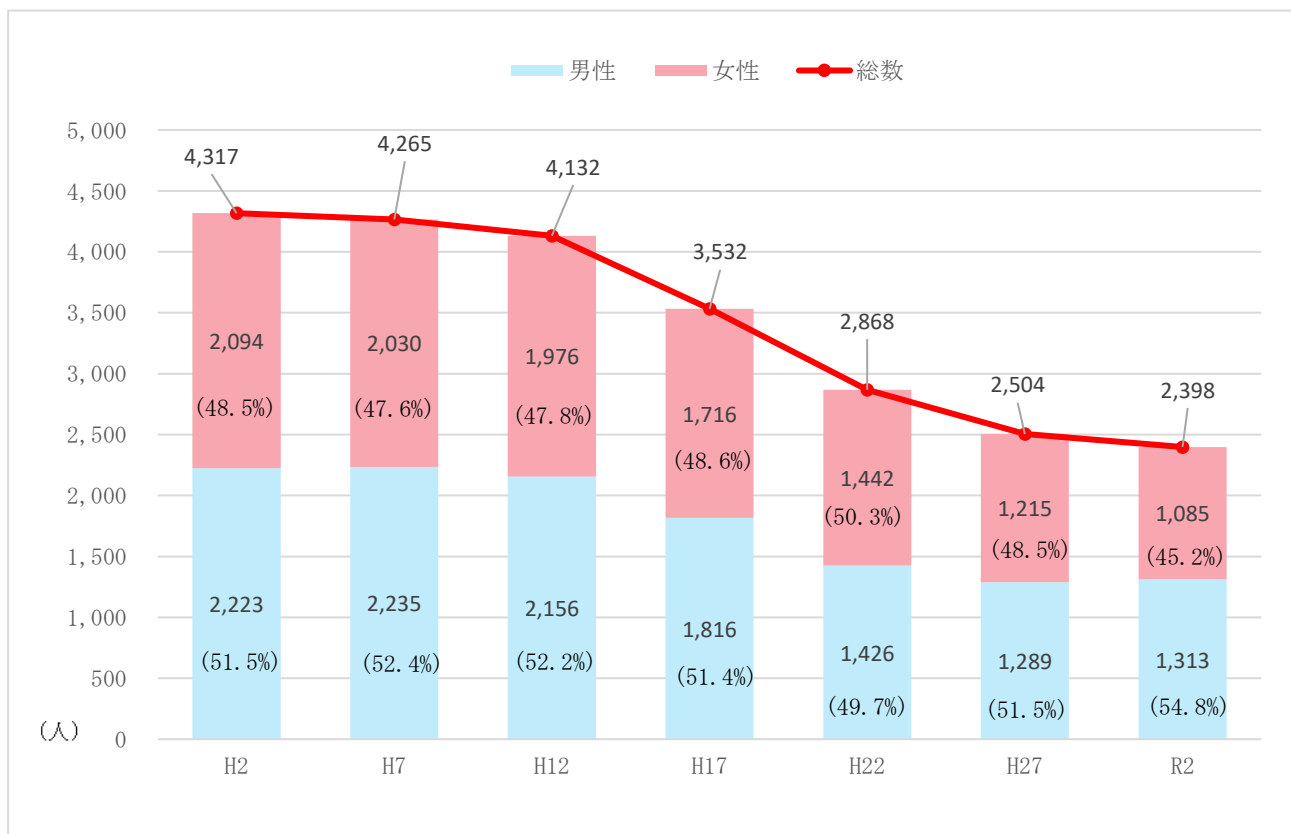
瀬戸内町の 15 歳～49 歳の人口は、1990 (H2) 年以降、全体的には減少傾向をたどってきた。特に 2010 (H22) 年は減少率が 2005 (H17) 年と比べて 18.8%減と最も大きく減少した。2020 (R2) 年の減少率は低下しているものの、これを 1990 (H2) 年と 2020 (R2) 年で実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 55.5%に減少している。

「15～49 歳の男性人口」は、1990 (H2) 年と比べて 1995 (H7) 年は増加傾向であったものの、それ以降は減少傾向をたどってきた。その後、2020 (R2) 年には再び増加傾向となり、1,313 人となっている。これも同じく実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 59.1%に減少している。

「15～49 歳の女性人口」については、1990 (H2) 年には 2,094 人であったのに対し、2000 (H12) 年には 2,000 人を割り込み、2020 (R2) 年には 1,085 人まで落ち込んでいる。これを実数比較 (2020 年/1990 年) すると約 51.8%に減少しており、男性より減少率が大きい。

総人口に占める男女の割合については、1990 (H2) 年では、男性が 51.5%、女性が 48.5%と男性の占める割合が大きかったが、2020 (R2) になると、男性が 54.8%、女性が 45.2%となり、さらに男性の占める割合が大きくなっている。

図表 1-3-56) 15～49 歳男女別人口の推移【瀬戸内町】



出典：国勢調査

(6) 龍郷町

① 年齢3区分別人口の推移

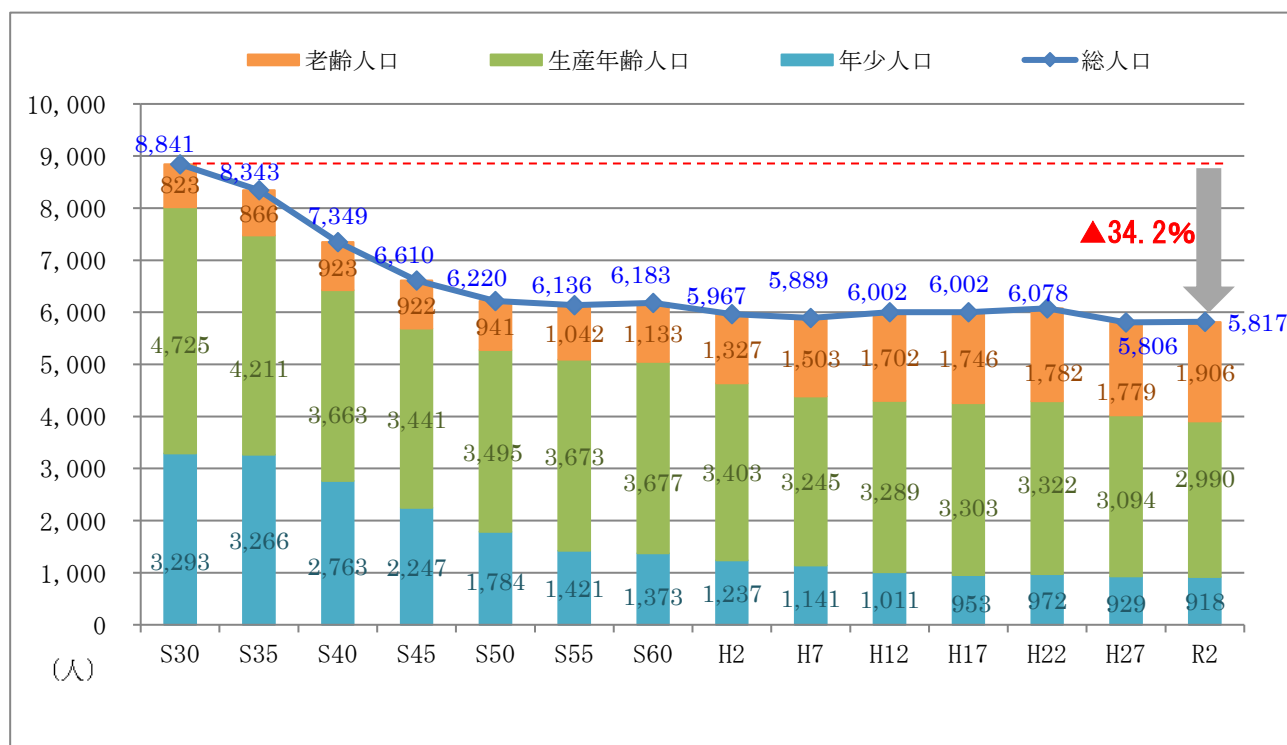
龍郷町の人口は、1955(S30)年以降、全体的には減少傾向をたどってきたが、1975(S50)年以降は概ね横ばい傾向となっている。1965(S40)年の減少率が1960(S35)年と比べて11.9%と最も大きく減少したものの、その割合は旧名瀬市及び旧笠利町に次いで低い水準であった。1980(S55)年以降は減少率が±0%台を推移する傾向となっており、島内で唯一、人口を維持している状況である。

1955(S30)年の「年少人口」は37.2%を占める3293人であったが、1975(S50)年に30%台、1995(H7)年に20%台を割り込み、2020(R2)年には15.8%となっている。これを1955(S30)年と2020(R2)年とで実数比較(2020年/1955年)すると27.9%に縮小している。

「生産年齢人口」は、1980(S55)年に59.9%を占める高い水準に達しており、その他の年代も総じて50%台となっていることから、なだらかな凸型となっている。これも同じく実数比較(2020年/1955年)すると63.3%に縮小している。

一方で、「高齢人口」は1955(S30)年には9.3%台であったものが、1960(S35)年には10%台、1990(H2)年には20%台を超え、2015(H27)年には30%台に突入し2020(R2)は32.8%となっている。これを実数比較(2020年/1955年)すると231.6%に大きく拡大している。

図表 1-3-61) 年齢3区分別人口の推移【龍郷町】



出典：国勢調査

図表 1-3-62) 年齢 3 区分別人口の割合【龍郷町】

年齢 区分	1960 (S35)	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	2020 (R2)
0~14	39.1%	34.0%	23.2%	20.7%	16.8%	16.0%	15.8%
15~64	50.5%	52.1%	59.9%	57.0%	54.8%	54.7%	51.4%
65~	10.4%	13.9%	17.0%	22.2%	28.4%	29.3%	32.8%

出典：鹿児島県の推計人口

② 人口動態（自然動態・社会動態）

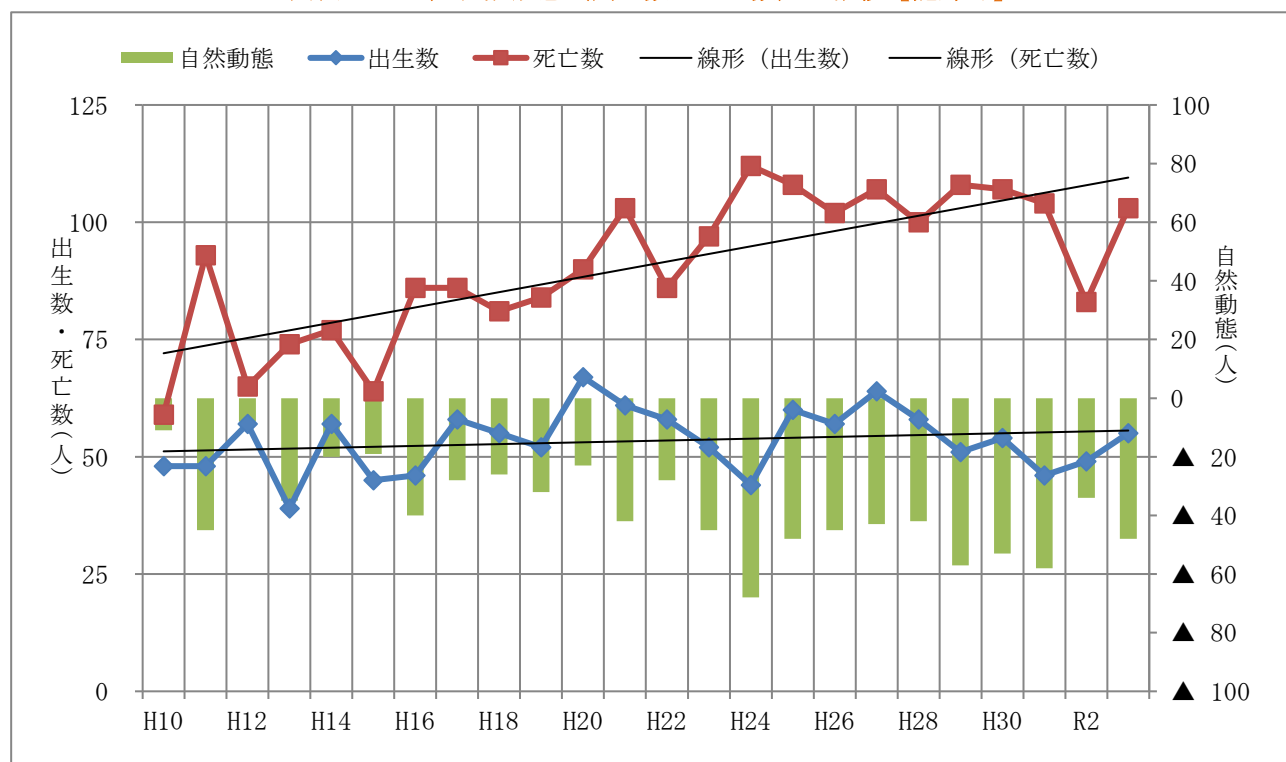
1998 (H10) 年以降の龍郷町における「自然動態」は、常に死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。

しかしながら、出生数及び死亡数の近似直線を重ねてみると、後年度に向けて差が拡大しつつあるものの、出生が死亡による人口動態減の拡大を抑制している。

「死亡数」をみると、1998 (H10) 年頃の 75 人を下回る状況から 2012 (H24) 年からは 100 人を超える状況となっている。

「出生数」をみると、2005 (H17) 年から継続的に 50 人を超える状況となってきており、島内で唯一、増加傾向にある。

図表 1-3-63) 自然動態（出生数・死亡数）の推移【龍郷町】



出典：奄美群島の概況

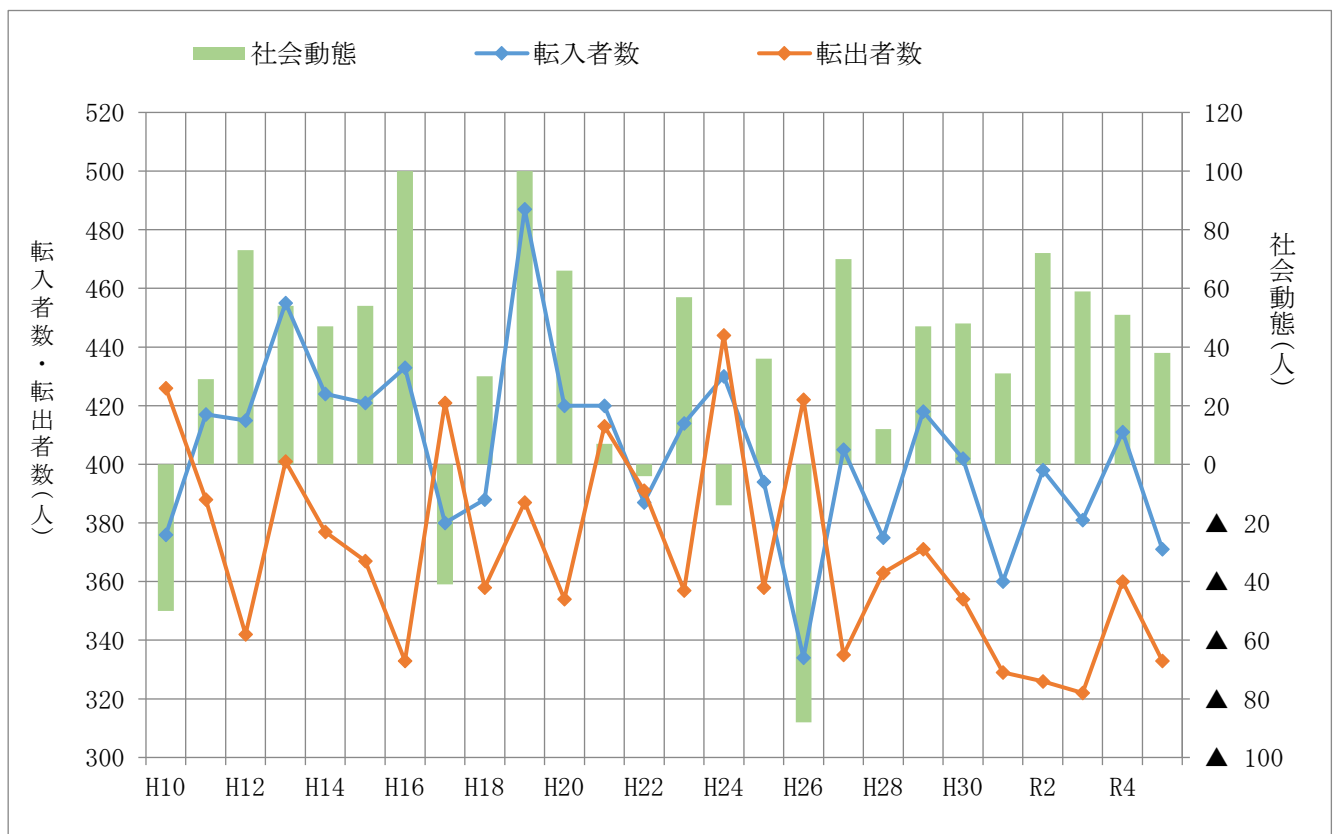
1998(H10)年以降の26年間のうち、龍郷町における転入者数から転出者数を差し引いた「社会動態」は、1998(H10)年、2005(H17)年、2010(H22)、2012(H24)年、2014(H26)年の5年間は社会減となっているが、それ以外の年では社会増となっている。

1998(H10)年以降、社会増と社会減を繰り返していたが、2015(H27)年以降は社会増の傾向にあり、島内で唯一、社会増の傾向にある。

「転入者数」をみると、2001(H13)年の455人をピークに減少傾向にあったが、2006(H18)年以降に増加に転じると、2007(H19)には過去最高の488人となった。その後、増減を繰り返しながら、2014(H26)年には334人まで減少するものの、2015(H27)年以降は、360～410人台を推移している。

「転出者数」をみると、1998(H10)年以降、増減を繰り返しながら、2012(H24)年に過去最高の444人となったが、その後は増減を繰り返しながらも減少傾向にあり、2021(R3)年には322人にまで減少した。

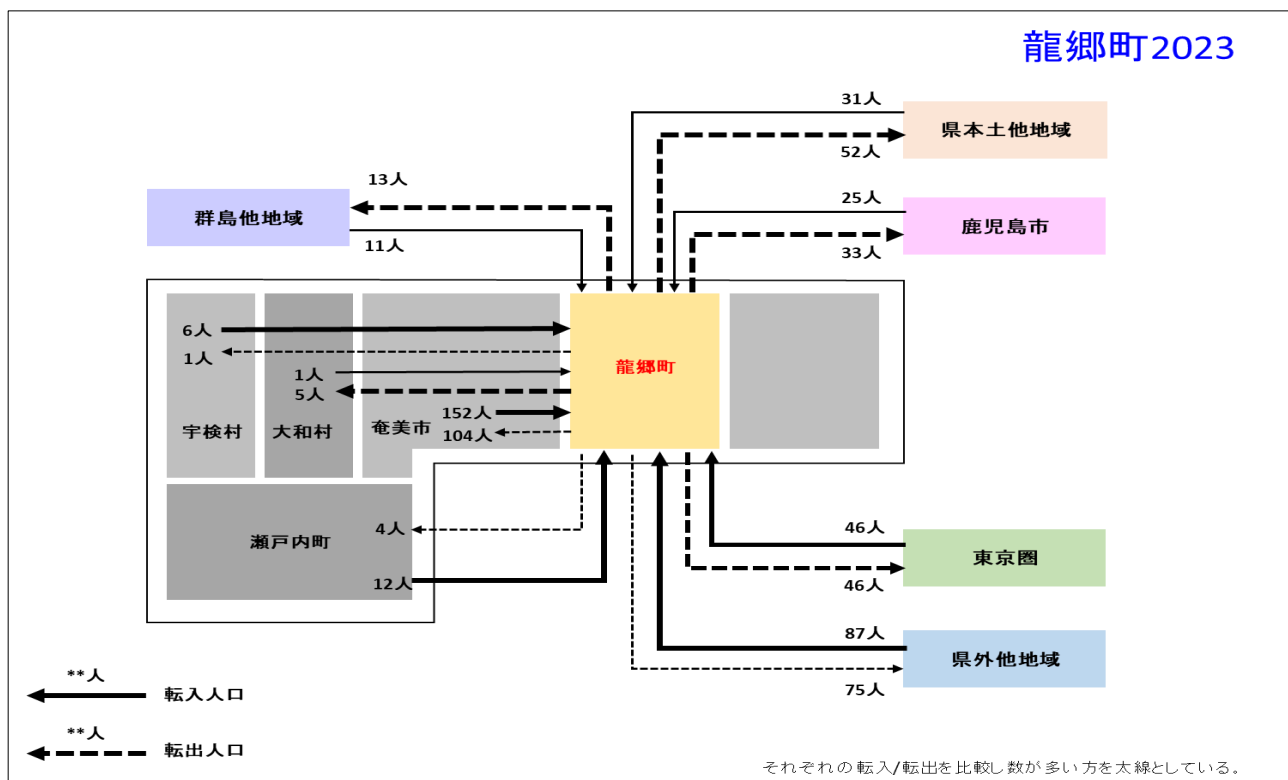
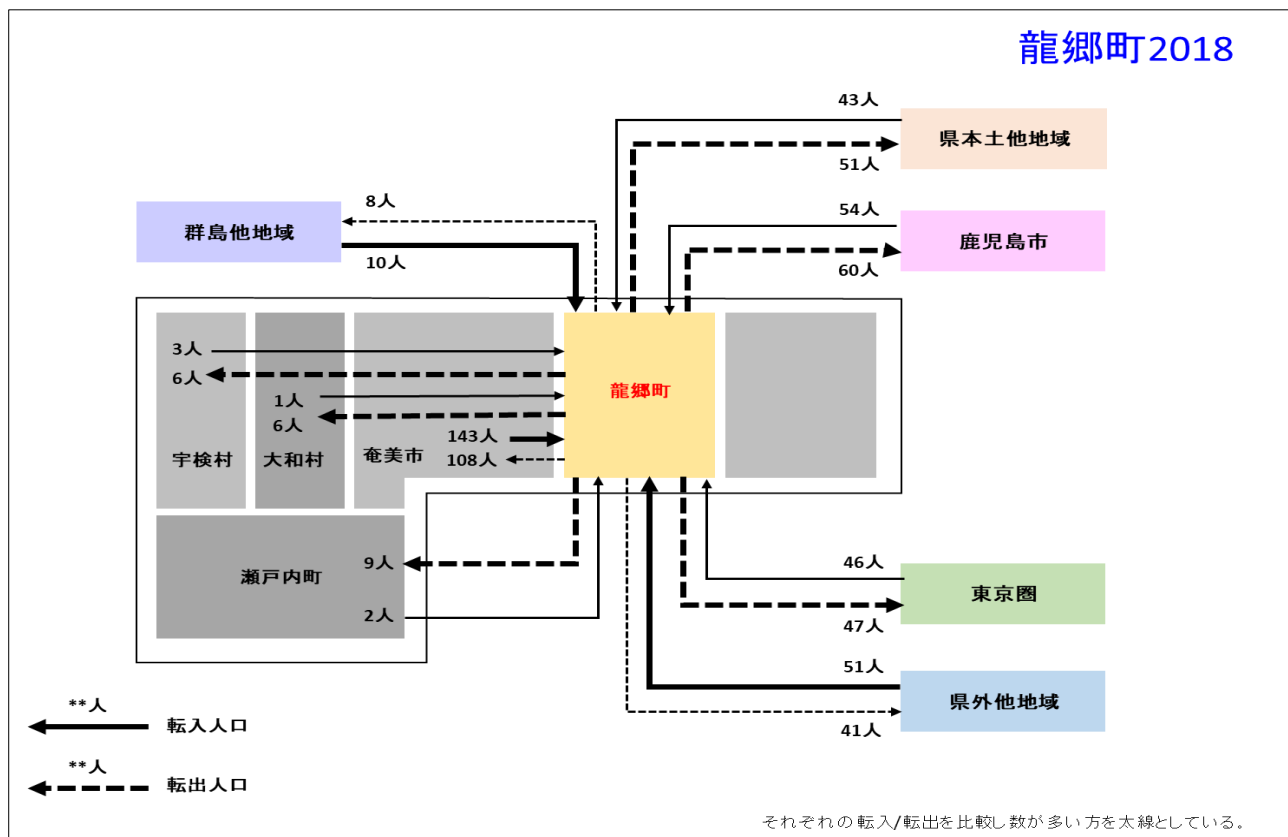
図表 1-3-64) 社会動態（転入者数・転出者数）の推移【龍郷町】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

「社会動態」は、2018(H30)年と2023(R5)年を比較すると、鹿児島市や県外他地域、近隣自体である奄美市から引き続き、転入超過となっている。

図表 1-3-65) 社会動態（転入数・転出数）の2018-2023 比較【龍郷町】



出典：総務省統計局 市町村別人口移動

③ 人口の推移(15～49 歳)

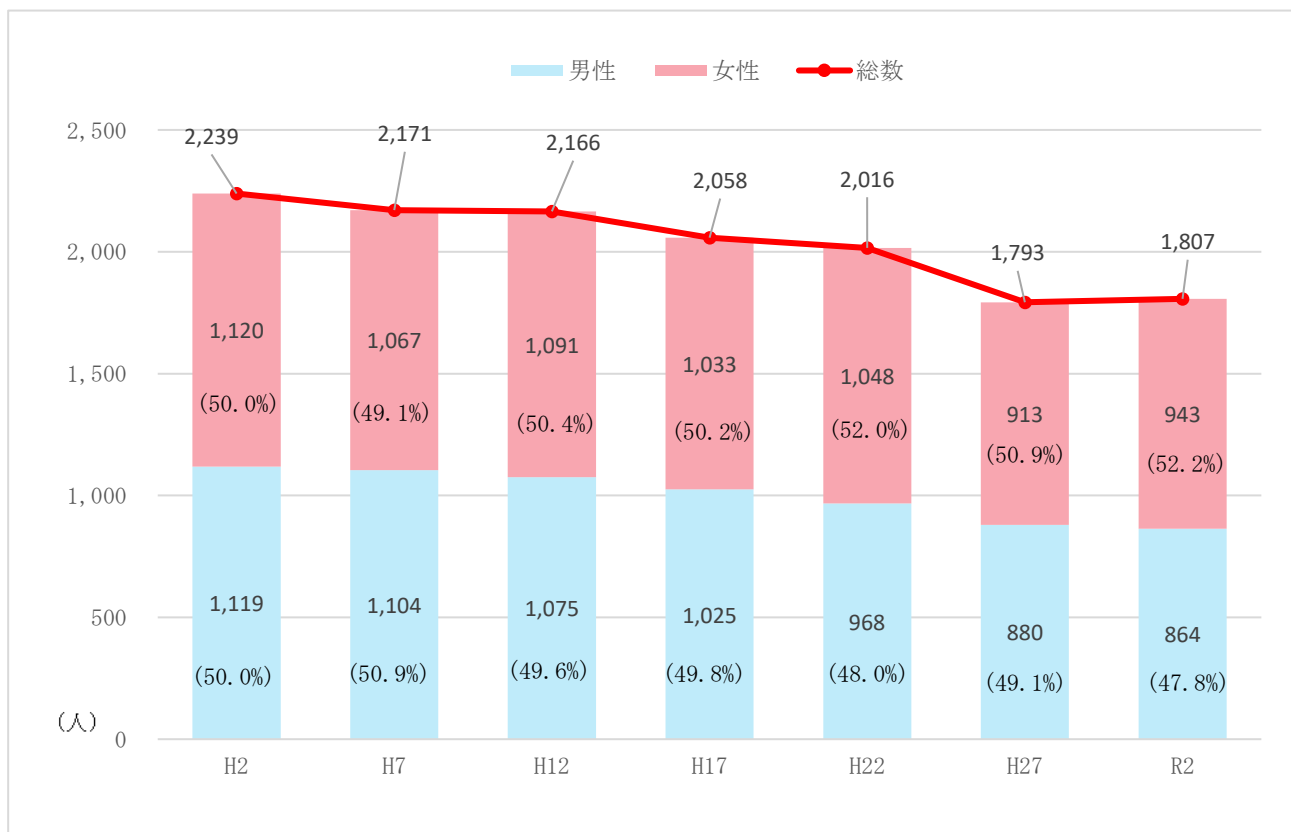
龍郷町の 15 歳～49 歳の人口は、1990 (H2) 年以降、全体的には緩やかな減少傾向をたどってきている。2015 (H27) 年には 2,000 人を割り込んだものの、2020 (R2) 年には増加傾向に転じている。1990 (H2) 年と 2020 (R2) 年で実数比較(2020 年/1990 年)すると約 80.7%に減少している。

「15～49 歳の男性人口」は、1,119 人であったのに対し、2010 (H22) 年以降は 1,000 人を割り込み、2020 (R2) 年には 864 人まで落ち込んでいる。これも同じく実数比較(2020 年/1990 年)すると約 77.2%に減少している。

「15～49 歳の女性人口」については、1990 (H2) 年には 1,120 人であったのに対し、2015 (H27) 年には 1,000 人を割り込んだ。2020 (R2) 年は増加に転じているものの 943 人と 1,000 人は割っている状況である。これを実数比較(2020 年/1990 年)すると約 84.2%に減少しているが、男性より減少率は小さい。

総人口に占める男女の割合については、1990 (H2) 年では、男性が 50.0%、女性が 50.0%と同じ割合だったが、2020 (R2) になると、男性が 47.8%、女性が 52.2%となり、5 市町村では唯一、女性の占める割合が大きくなっている。

図表 1-3-66) 15～49 歳男女別人口の推移【龍郷町】



出典：国勢調査

Ⅱ. 奄美大島の将来人口推計

(1) 奄美大島

① 社会保障・人口問題研究所を基にした推計

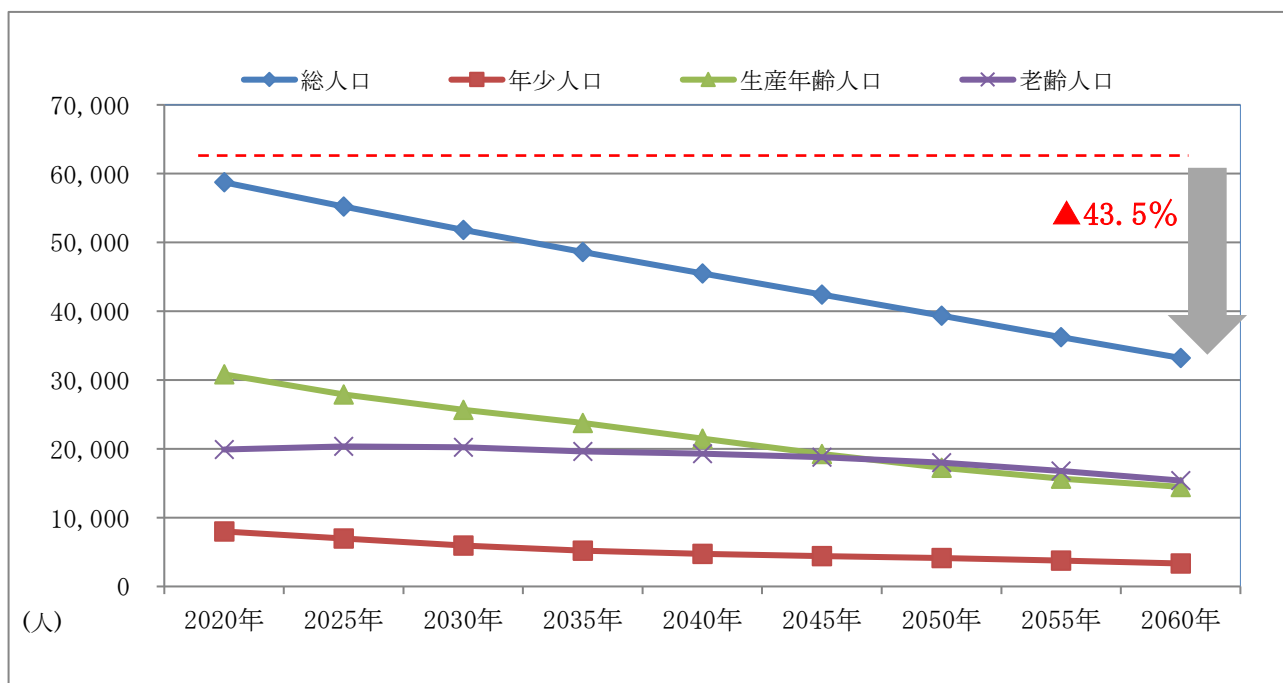
奄美大島の 2020 (R2) 年の総人口は 5 万 8,738 人で、同年の年齢 3 区分別人口は年少人口 7,990 人 (13.6%)、生産年齢人口 3 万 739 人 (52.5%)、高齢人口 1 万 9,884 人 (33.9%) となっている。

国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)を基にした各市町村の推計値を積み上げると、2060 年の人口は前回時の 2 万 6,308 人から 3 万 3,209 人と 6,901 人ほど上がっており、2020 (R2) 年からの人口減少率は 43.5%と見込まれている。

その内訳は年少人口 3,342 人 (10.1%)、生産年齢人口 1 万 4,477 人 (43.6%)、高齢人口 1 万 5,389 人 (46.3%) となっている。

特に、高齢人口は 2050 年に生産年齢人口を超える見込みである。年少人口は 2060 年には 2020 (R2) 年の 41.8%まで縮小する見込みとなっている。

図表 2-1-11) 将来人口・年齢 3 区分別人口推計 (社人研) 【奄美大島】



出典：国立社会保障・人口問題研究所

※2051 年以降は各指標が一定
で推移すると仮定して推計

(2) 奄美市

① 社会保障・人口問題研究所を基にした推計

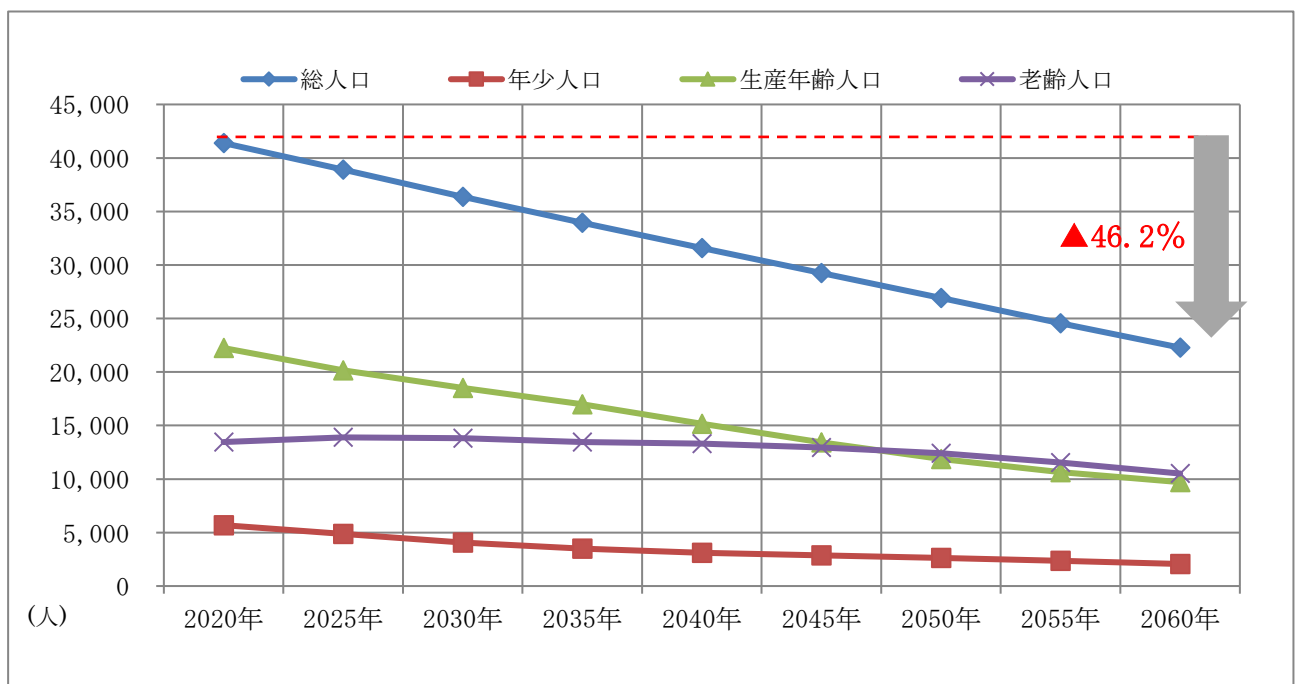
奄美市の 2020 (R2) 年の総人口は 4 万 1,390 人で、同年の年齢 3 区分別人口は年少人口 5,685 人 (13.8%)、生産年齢人口 2 万 2,168 人 (53.7%)、高齢人口 1 万 3,441 人 (32.5%) となっている。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）を基にした推計によると、2060 年の人口は前回時の 1 万 7,596 人から 2 万 2,280 人と 4,684 人ほど上げており、2020 (R2) 年からの人口減少率は 46.2%と見込まれている。

その内訳は年少人口 2,063 人 (9.3%)、生産年齢人口 9,706 人 (43.6%)、高齢人口 10,511 人 (47.2%) となっている。

特に、高齢人口は 2025 年をピークに減少傾向になる見込みだが、2050 年に生産年齢人口を超え、奄美市の人口の 4 割以上を占める見込みとなるほか、年少人口及び生産年齢人口が 2060 年は 2020 (R2) と比較すると、半分以上減少する見込みとなっている。

図表 2-1-21) 将来人口・年齢 3 区分別人口推計 (社人研) 【奄美市】



出典：国立社会保障・人口問題研究所

※2051 年以降は各指標が一定
で推移すると仮定して推計

(3) 大和村

① 社会保障・人口問題研究所を基にした推計

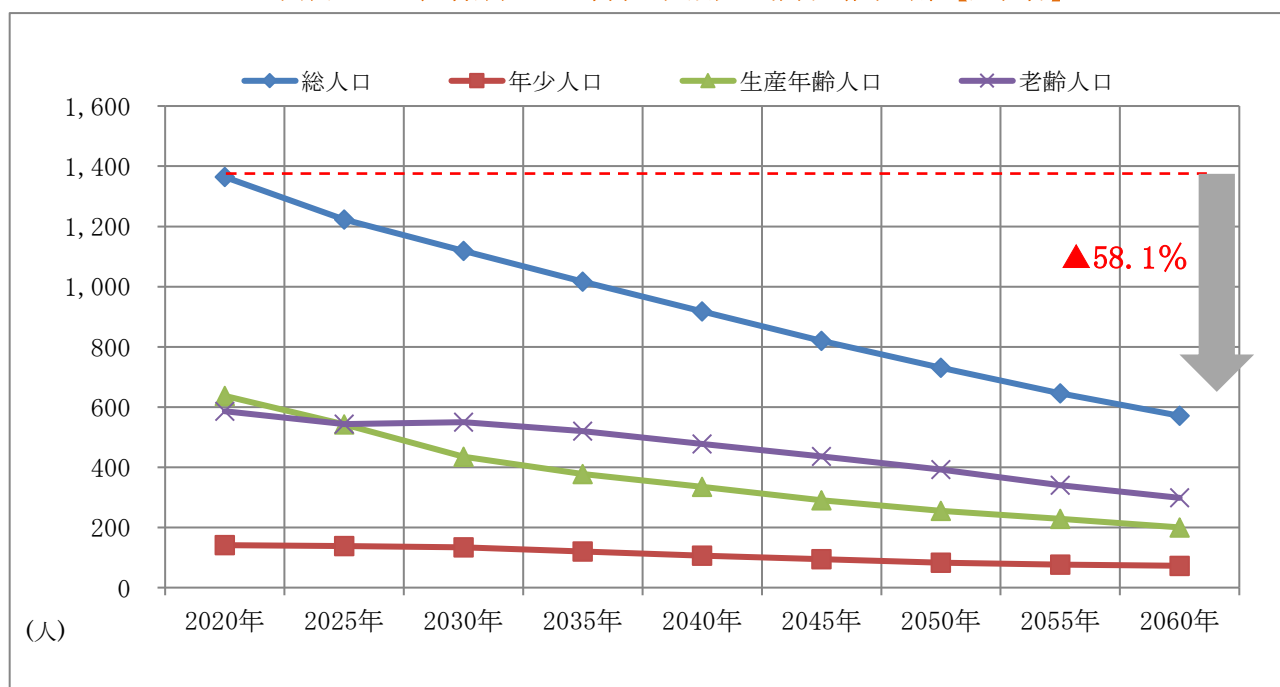
大和村の 2020 (R2) 年の総人口は 1,364 人で、同年の年齢 3 区分別人口は年少人口 141 人 (10.3%)、生産年齢人口 637 人 (46.7%)、高齢人口 586 人 (43.0%) となっている。

国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)を基にした推計によると、2060 年の人口は前回時の 483 人から 571 人と 88 人ほど上げており、2020 (R2) 年からの人口減少率は 58.1%と見込まれている。

その内訳は年少人口 73 人 (12.7%)、生産年齢人口 200 人 (35.0%)、高齢人口 298 人 (52.2%) となっている。

特に、高齢人口は 2025 年に生産年齢人口を超え、2030 年まで増加するがその後は減少見込みであるほか、生産年齢人口が比較的大きく減少することで総人口が縮小する見込みとなっている。

図表 2-1-31) 将来人口・年齢 3 区分別人口推計 (社人研) 【大和村】



出典：国立社会保障・人口問題研究所

※2051 年以降は各指標が一定
で推移すると仮定して推計

(4) 宇検村

① 社会保障・人口問題研究所を基にした推計

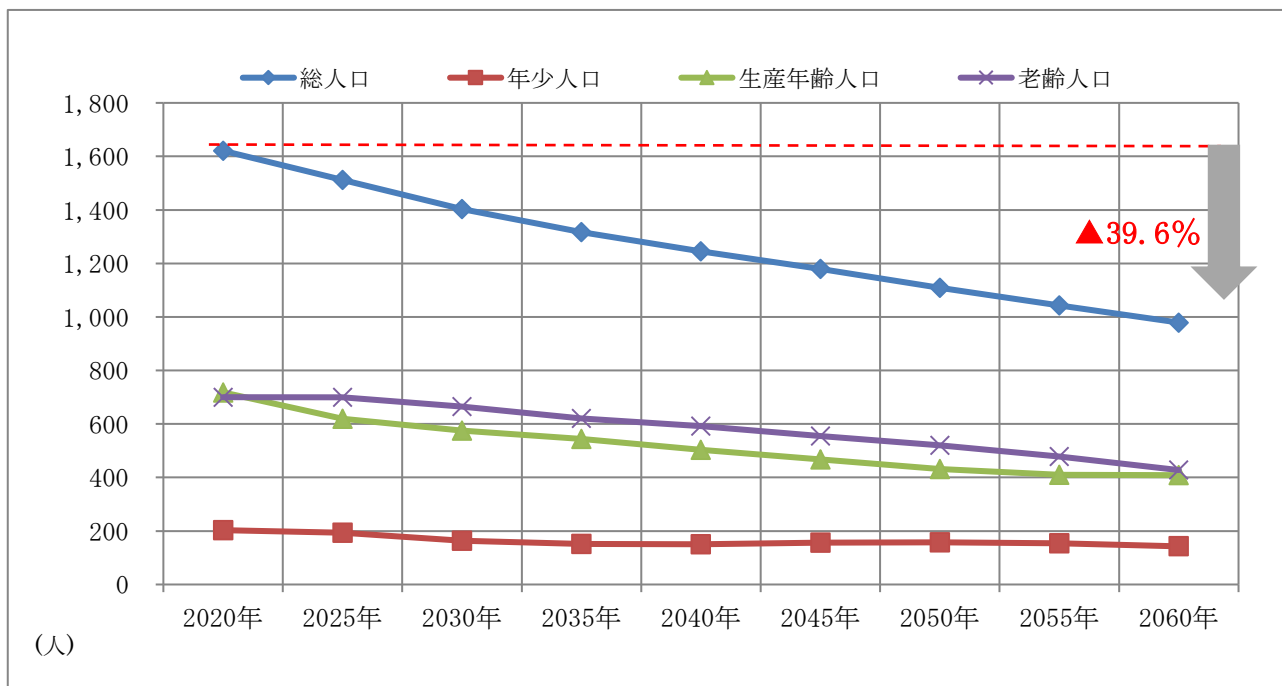
宇検村の 2020 (R2) 年の総人口は 1,621 人で、同年の年齢 3 区分別人口は年少人口 203 人 (12.5%)、生産年齢人口 718 人 (44.3%)、高齢人口 700 人 (43.2%) となっている。

国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)を基にした推計によると、2060 年の人口は前回時の 663 人から 979 人と 316 人ほど上がっており、2020 (R2) 年からの人口減少率は 39.6%と見込まれている。

その内訳は年少人口 143 人 (14.6%)、生産年齢人口 409 人 (41.7%)、高齢人口 428 人 (43.7%) となっている。

また、生産年齢人口は 2020 年では高齢人口を超えているものの、それ以降は下回る見込みである。また、年少人口は 2035 年までは減少傾向であるものの、それ以降は 150 人前後で推移する見込みである。

図表 2-1-41) 将来人口・年齢 3 区分別人口推計 (社人研) 【宇検村】



出典：国立社会保障・人口問題研究所

※2051 年以降は各指標が一定
で推移すると仮定して推計

(5) 瀬戸内町

① 社会保障・人口問題研究所を基にした推計

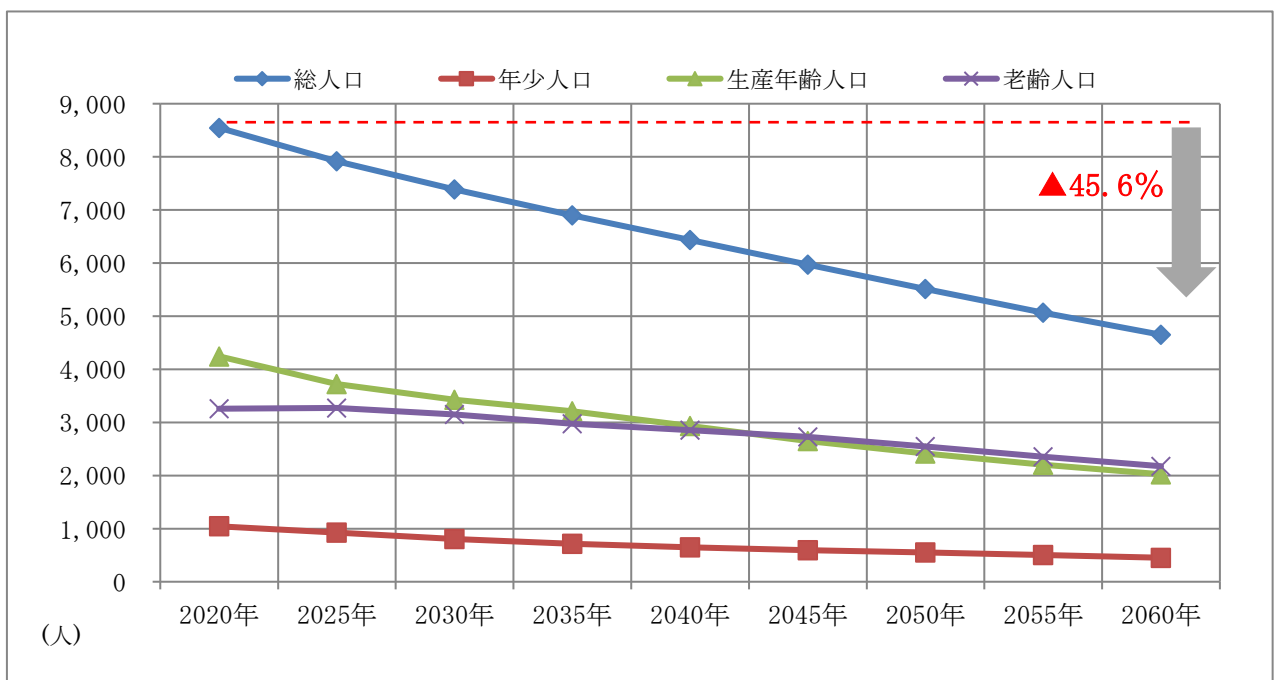
瀬戸内町の 2020 (R2) 年の総人口は 8,546 人で、同年の年齢 3 区分別人口は年少人口 1,043 人 (12.2%)、生産年齢人口 4,227 人 (49.6%)、高齢人口 3,251 人 (38.2%) となっている。

国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)を基にした推計によると、2060 年の人口は前回時の 3,614 人から 4,650 人と 1,036 人ほど上がっており、2020 (R2) 年からの人口減少率は 45.6%と見込まれている。

その内訳は年少人口 452 人 (9.7%)、生産年齢人口 2,023 人 (43.5%)、高齢人口 2,175 人 (46.8%) となっている。

特に、高齢人口は 2045 年に生産年齢人口を超えるほか、生産年齢人口は 2060 年には 2020 (R2) 年の 47.9%まで縮小する見込みとなっている。

図表 2-1-51) 将来人口・年齢 3 区分別人口推計 (社人研) 【瀬戸内町】



出典：国立社会保障・人口問題研究所

※2051 年以降は各指標が一定
で推移すると仮定して推計

(6) 龍郷町

① 社会保障・人口問題研究所を基にした推計

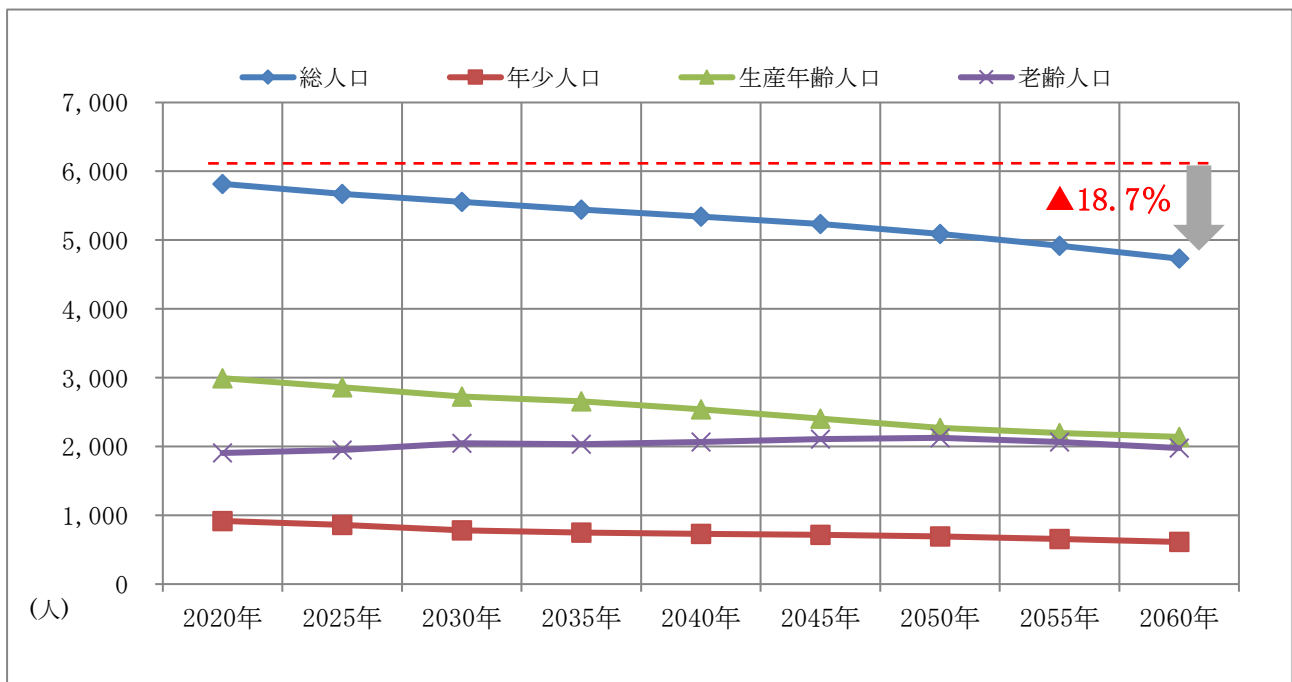
龍郷町の 2020 (R2) 年の総人口は 5,817 人で、同年の年齢 3 区分別人口は年少人口 918 人 (15.8%)、生産年齢人口 2,990 人 (51.4%)、高齢人口 1,906 人 (32.8%) となっている。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）を基にした推計によると、2060 年の人口は前回時の 3,951 人から 4,730 人と 779 人ほど上がっており、2020 (R2) 年からの人口減少率は 18.7%と見込まれている。

その内訳は年少人口 612 人 (12.9%)、生産年齢人口 2,140 人 (45.2%)、高齢人口 1,978 人 (41.8%) となっている。

高齢人口は微増傾向が続くが、2060 年まで生産年齢人口を上回る見込みでない。また、生産年齢人口が他の 4 町村と比べ人口減少率が低いため、総人口の減少率も低くなる見込みとなっている。

図表 2-1-61) 将来人口・年齢 3 区分別人口推計 (社人研) 【龍郷町】



出典：国立社会保障・人口問題研究所

※2051 年以降は各指標が一定
で推移すると仮定して推計

Ⅲ. 奄美大島の将来展望

1. 目指すべき地域社会の姿

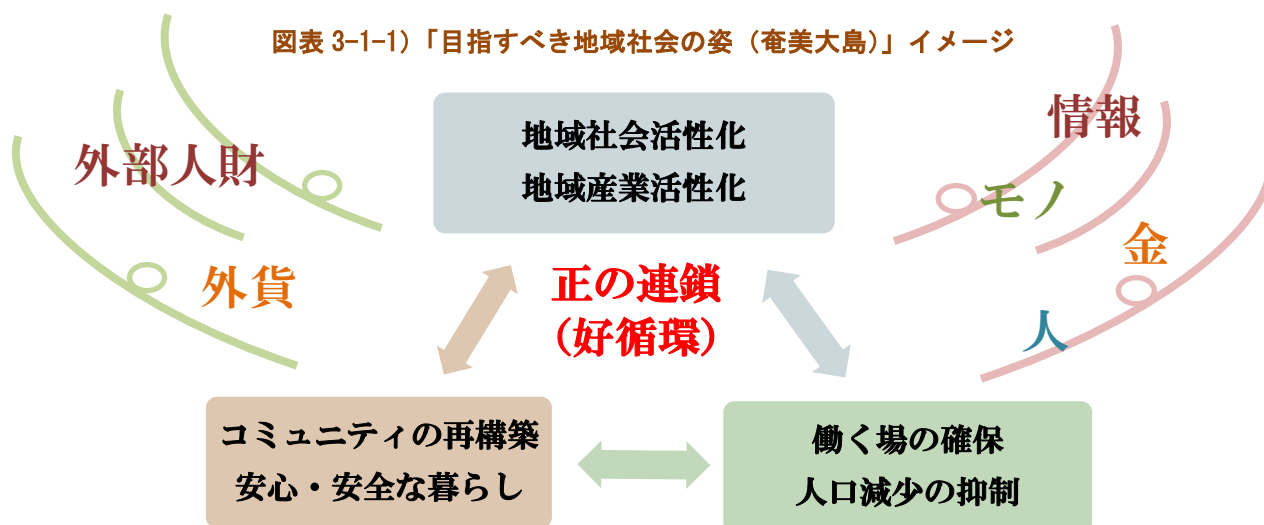
奄美大島では、島内5市町村が一体となって人口減少に伴う負の連鎖（人材不足による産業の縮小→産業の縮小による給与環境の低迷→給与環境が低迷することによる、結婚・子育てへの不安増大→結婚・子育てへの不安増大による出生数の低下→さらなる人口減少）を克服し、正の連鎖（好循環）を創出していく必要がある。

そのためには、一人ひとりの住民や企業、NPO等の団体、教育機関、行政などの多様な主体が当事者意識を持ち、それぞれの得意分野を活かし、これまで以上に相互連携・協力を図りながら、地域全体を支えていくことが必要である。

また、奄美大島における持続可能な地域社会づくりに向けて、複雑多様化する諸課題に適切に対応していくとともに、固有資源「人」・「モノ」・「金」・「情報」の地域循環（資金流出の抑制）及び地域活用（自給率）を高め、島外から外貨や人材を獲得することにより地域経済・地域社会を活性化していくことが求められる。

- ✓人口減少に伴う負の連鎖を島内5市町村が一体となり、多様な人材等の参加と協働によって克服し、正の連鎖（好循環）を創出していく。
- ✓持続可能な地域づくりに向けて、地域課題に適切に対応していくとともに、固有資源「人」・「モノ」・「金」・「情報」の地域循環・地域活用を高め、地域経済・地域社会を活性化していく。

図表 3-1-1) 「目指すべき地域社会の姿（奄美大島）」イメージ



2. 目指すべき取組の方向

奄美大島の目指すべき取組の方向については、以下のとおりとし、これらの実現に向けて5市町村が総合戦略を策定する。

(1) 社会動態をプラスにする！

地域住民やU I ターン者が住みたい、住み続けたいと思える社会を創る。

(具体的な施策の方向)

- ✓ 就業支援・住まいの確保
- ✓ 安心安全に生活するための定住環境の整備(医療や福祉、防災)
- ✓ 地域内経済循環を促進し、地域経済の「稼ぐ力」を高める
- ✓ 子どもたちのしまへの愛着を高める取組の推進

(2) 子育て世代を増やす！

子育て世代が抱える悩みなどを解消し、子育てしやすい環境を整備する。

(具体的な施策の方向)

- ✓ 多様な働き方の推進
- ✓ 子ども・子育て世代に向けたサービスの充実(遊び場づくり、情報発信)
- ✓ 将来の子育ての不安解消に向けた取組

(3) 出生数を増やす！

結婚の希望を実現できる社会を創るとともに、安心して子どもを産み育てることができる社会を創る。

(具体的な施策の方向)

- ✓ 出会いの場の創出
- ✓ 子どもをはぐくむ環境の確保・充実

(4) 人口減少に対応したしまづくり

人口減少社会(総人口の減少と人口構成の変化)に対応したしまづくりに取り組む。

(具体的な施策の方向)

- ✓ 住民の生活水準を維持・向上させ、公共サービスの効率化
- ✓ 公共施設の再編とその活用策
- ✓ デジタルの力を活用した社会課題解決

3. 人口の将来展望

(1) 人口の将来展望

目指すべき取組の方向を踏まえ、奄美大島が実現したい将来目標人口を下記のとおり設定する。

＜現状の将来推計人口：2060 年＞

33,209 人

将来推計人口より

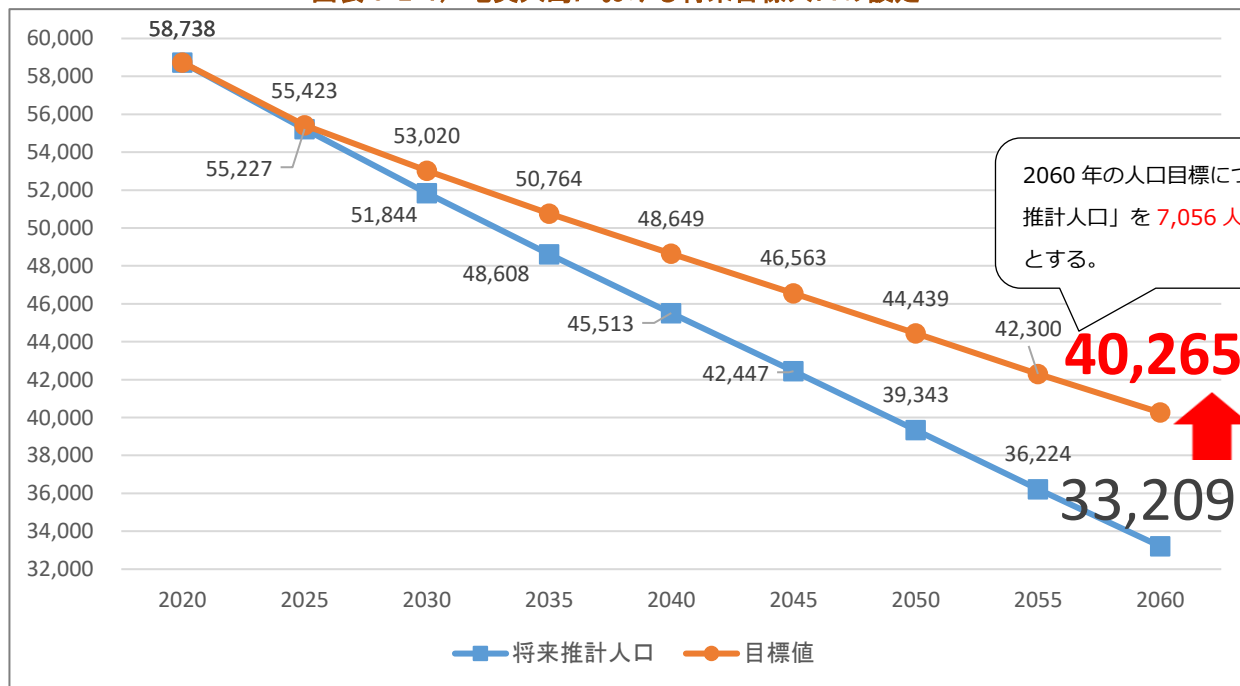
各年 196 人増を目指す

社会動態：188 人, 自然動態 8 人

＜将来目標人口：2060 年＞

40,265 人

図表 3-2-1) 奄美大島における将来目標人口の設定



2060 年の人口目標について「将来推計人口」を 7,056 人上回る目標とする。

出典：国立社会保障・人口問題研究所

※2051 年以降は各指標が一定で推移すると仮定して推計

(2) 将来展望の詳細

① 社会動態の目標

奄美群島成長戦略ビジョン 2033 基本計画・実施計画(前期)(以下、「ビジョン」という)と整合性を図るため、社会動態についての考え方は同様とする。

【目標値の考え方】

ビジョンでは各島の社会動態をプラスに転じさせることを目標とし、各年の将来推計人口に社会動態の目標数分を加えたものである。奄美群島全体で年間 397 人の目標を掲げており、奄美大島だと年間 188 人の目標となる。

将来推計人口に社会動態の目標数分を加える。(各年ごとに 188 人加えた数値)

② 自然動態の目標

社会動態では奄美大島全体で年間 188 人の増加を目標とする。これを参考に自然動態での目標値を設定する。

【目標値の考え方】

社会動態では、奄美大島全体で年間 188 人増を目標とする。

↓

社会増のターゲット層は子育て世代(25～49 歳までの男女)とする。

↓

現在の男女比率はほぼ 1 : 1 なので、女性の社会増目標値を 94 人とする。さらに年齢階級ごとの出生率をかけ、出生者数の増加目標(年間)を算定する。

↓

将来推計人口に自然動態の目標数分を加える。(各年ごとに 8 人加えた数値)

	女性の社会増目標値	出生者数の増加目標
25～29歳	11	2
30～34歳	15	2
35～39歳	21	2
40～44歳	23	1
45～49歳	24	1
計	94	8

＜参考＞各市町村の目標値

○社会動態(各年)：奄美大島 188 人

奄美市 133 人、大和村 4 人、宇検村 5 人、瀬戸内町 27 人、龍郷町 19 人

○自然動態(5 年間累計)：奄美大島 40 人

奄美市 28 人、大和村 1 人、宇検村 1 人、瀬戸内町 6 人、龍郷町 4 人



奄美大島人口ビジョン 2025

編集・発行 奄美大島総合戦略推進本部

事務局（奄美市総務部企画調整課）

〒894-8555 鹿児島県奄美市名瀬幸町 25 番 8 号

TEL 0997-52-1111 FAX 0997-52-1001
